
深 谷 市

塚 原 古 墳 群

深谷はばたき特別支援学校開校予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告

2 0 1 1

埼 玉 県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 航空写真（東から） ↑遺跡位置



2 航空写真（真上から）

つかはら こふんぐん 塚原古墳群の紹介

塚原古墳群は、深谷市の荒川右岸沿いの河岸段丘上かがんだんきゅうじょうにあります。かつては、前方ぜんぽう後円墳こうえんふんである蛤塚古墳はまぐりづかこふんを中心に数十基の古墳があったといわれていますが、後世の耕作などで削られ、古墳の墳丘は全く残っていません。

今回の調査では、約1,500年前の古墳跡2基と土壙墓どこうぼ1基のほか、中世たてあなじょうの竪穴状遺構いこう、中・近世の土壙、ピットなどが発見されました。古墳跡は墳丘が削平され、埋葬施設は確認されず周溝のみが検出されました。周溝からは、円筒埴輪が墳丘から転落、横転した状態で出土しました。また、同時期の土壙墓が発見されたことから、古墳に埋葬された人とそうでない人との違いがあったことが窺えます。

中・近世の遺構は、古墳の南側に集中して検出されています。このことから近世までは、墳丘が残っていたと考えられます。

今回の調査では円筒埴輪のみが出土しましたが、過去に調査された古墳からは形象埴輪も出土しており、古墳群の中でも埴輪の樹立の仕方に違いがあったことが窺えます。

序

埼玉県では、県政運営の基本となる5か年計画「ゆとりとチャンスの埼玉プラン」を策定し、教育施策を含め着実な推進を図っています。こうした中、平成18年12月に、制定から60年を経て教育基本法が改正されました。

そこで、改正教育基本法を踏まえ、本県の教育振興のため「生きる力と絆の埼玉教育プラン」を策定しました。基本目標達成の施策の一つは、特別支援学校の教室不足を解消することにあります。このため、旧県立川本高校の校舎を改修し、対応することとなりました。

改修予定地には塚原古墳群があるため、その取扱いについては、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなりました。発掘調査は埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課の委託を受けて、当事業団が実施いたしました。

発掘調査の結果、古墳時代後期の古墳跡と埴輪が出土し、塚原古墳群を知る上で貴重な成果を上げることができました。

本書は、これらの発掘調査の成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護、並びに普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、広く活用いただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課、埼玉県県北部地域特別支援学校開設準備室、深谷市教育委員会並びに地元関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。

平成23年11月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 藤野 龍 宏

例言

1. 本書は深谷市本田に所在する塚原古墳群第3次の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。
塚原古墳群第3次（ツカハラ3次）
深谷市本田50他
平成22年5月10日付け 教生文第2-7号
3. 発掘調査は、県北部地域特別支援学校開校に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査で、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、埼玉県教育局県立学校特別支援教育課の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 委託事業名は以下のとおりである。
発掘調査（平成22年度）
「県北部地域特別支援学校（仮称）開校
予定地埋蔵文化財発掘調査委託」
整理報告書刊行（平成23年度）
「深谷はばたき特別支援学校開校予定地
埋蔵文化財発掘調査（整理）委託」
5. 発掘調査・整理報告書作成事業はⅠ-3に示した組織により実施した。
発掘調査は富田和夫・山本禎が担当し、平成22年5月1日から平成22年7月31日まで実施した。
- 整理報告書作成事業は山本が担当し、平成23年6月1日から平成23年9月30日まで実施した。平成23年11月24日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第386集として印刷・刊行した。
6. 発掘調査における基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。
7. 発掘調査における空中写真撮影は株式会社東京航業研究所に委託した。
8. 発掘調査における写真撮影は、各担当者が行った。整理・報告書作成における出土遺物の撮影は山本が行った。
9. 出土品の整理・図版作成は山本が行い、上野真由美の協力を受けた。
10. 本書の執筆は、Ⅰ-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が行い、Ⅵの石器、Ⅶの縄文土器を上野が、その他を山本が行った。
11. 本書の編集は山本が行った。
12. 本書にかかる諸資料は、平成23年10月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
13. 発掘調査や本書の作成にあたり、深谷市教育委員会をはじめ、関係機関の皆様からご教示・ご協力を賜った。記して感謝いたします。
熊谷市立江南文化財センター
新井 端 森田安彦

凡例

1. 遺跡全体におけるX・Yの座標は、世界測地系、国家標準平面直角座標第Ⅸ系（原点北緯36°00′00″、東経139°50′00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は、全て座標北を指す。

B-3グリッドの北西杭の座標値は
X=14750.000m Y=-49620.000m
北緯36°07′54″、東経139°16′55″

なお、各挿図に記した方位は、全て座標の座標北を指す。
2. 調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10m×10mの範囲を基本（1グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。
3. グリッド名称は、北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせ、例えばB-3グリッド等と呼称した。
4. 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

SS…古墳 SI…堅穴状遺構
SK…土壙 P…ピット
SX…倒木痕跡
5. 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。

全体図 1：200
古墳跡 （遺構図） 1：100
 （土層断面図） 1：50
 （遺物出土状況図） 1：40
堅穴状遺構・土壙・ピット 1：60
円筒埴輪 1：5
埴輪・埴輪拓影図 1：4
石器・縄文土器拓影図 1：3
6. 円筒埴輪観察表の表記方法は、以下のとおりである。

胎土は含まれる鉱物等のうち、特徴的なものを示した。
A：赤色粒子 B：白色粒子 C：長石
D：角閃石 E：石英 F：雲母
G：黒色粒子 H：白色針状物質 I：砂粒子
K：小礫 L：片岩

焼成は良：良好 普：普通 不：不良
観察表に記した色調は、全て農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』によった。
7. 遺構断面図に記した水準数値は、すべて海拔標高（単位m）を示す。
8. 本書の地形図は、国土地理院発行1/50000、東松山市都市計画図1/2500を使用した。

目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	V 中・近世の遺構と遺物	28
1. 発掘調査に至る経過	1	1. 竪穴状遺構	28
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	2. 土壙	29
3. 発掘調査・報告書作成の組織	3	3. ピット	30
II 遺跡の立地と環境	4	VI その他の出土遺物	42
1. 地理的環境	4	VII 立会調査の遺構と遺物	44
2. 歴史的環境	5	VIII 調査のまとめ	50
III 遺跡の概要	9	1. 調査の成果	50
IV 古墳時代の遺構と遺物	12	2. 埴輪について	52
1. 古墳跡	12		
2. 土壙墓	27	写真図版	

挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形	4	第21図	土壌	29
第2図	周辺の遺跡分布	6	第22図	ピット分布図	31
第3図	調査区位置図	10	第23図	ピット(1)	33
第4図	調査区全体図	11	第24図	ピット(2)	39
第5図	第1号墳(1)	13	第25図	ピット(3)	41
第6図	第1号墳(2)	14	第26図	グリッド出土・表採遺物	42
第7図	第1号墳遺物出土状況(1)	15	第27図	出土石器	43
第8図	第1号墳遺物出土状況(2)	16	第28図	風倒木痕1出土円筒埴輪	43
第9図	第1号墳遺物出土状況(3)	17	第29図	立会調査実施箇所位置図	44
第10図	第1号墳出土遺物(1)	18	第30図	①地点	45
第11図	第1号墳出土遺物(2)	19	第31図	立会調査出土遺物(1)	46
第12図	第1号墳出土遺物(3)	20	第32図	②地点	46
第13図	第1号墳出土遺物(4)	21	第33図	③地点	47
第14図	第1号墳出土遺物(5)	22	第34図	立会調査出土遺物(2)	47
第15図	第1号墳出土遺物(6)	23	第35図	④地点	48
第16図	第2号墳(1)	26	第36図	⑤地点	49
第17図	第2号墳(2)	27	第37図	塚原古墳群分布図	51
第18図	第2号墳出土遺物	27	第38図	円筒埴輪計測図	53
第19図	第1号土壌墓	28	第39図	埴輪窯跡出土埴輪	54
第20図	第1号堅穴状遺構	28			

表 目 次

第1表	第1号墳出土円筒埴輪計測表	17	第6表	風倒木痕1出土円筒埴輪観察表	43
第2表	第1号墳出土円筒埴輪観察表	24	第7表	立会調査①地点出土円筒埴輪観察表	45
第3表	第1号墳出土円筒埴輪観察表	25	第8表	立会調査出土形象埴輪観察表	47
第4表	第2号墳出土円筒埴輪観察表	27	第9表	埴輪計測値表	53
第5表	グリッド出土・表採円筒埴輪観察表	42			

写 真 図 版 目 次

巻頭図版	1	航空写真(東から)	図版2	1	全景(北東から)
	2	調査区全景(真上から)		2	全景(南から)
図版1	1	航空写真(南から)	図版3	1	第1号墳・第1号土壌墓(北から)
	2	航空写真(西から)		2	第1号墳(南東から)

図版 4	1	第 1 号墳 (北から)	4	第 3 号土壙
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (1)	5	第 5 号土壙
図版 5	1	第 1 号墳遺物出土状況 (2)	6	第 6 号土壙
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (3)	7	第 6 号土壙礫出土状況
図版 6	1	第 1 号墳遺物出土状況 (4)	8	第 7 号土壙
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (5)	図版20	1 ピット群 (東から)
図版 7	1	第 1 号墳遺物出土状況 (6)		2 ピット群 (北から)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (7)	図版21	1 第 1 号墳出土遺物 (第10図 1)
図版 8	1	第 1 号墳遺物出土状況 (8)		2 第 1 号墳出土遺物 (第10図 2)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (9)		3 第 1 号墳出土遺物 (第10図 3)
図版 9	1	第 1 号墳遺物出土状況 (10)		4 第 1 号墳出土遺物 (第10図 4)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (11)	図版22	1 第 1 号墳出土遺物 (第11図 5)
図版10	1	第 1 号墳遺物出土状況 (12)		2 第 1 号墳出土遺物 (第11図 6)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (13)		3 第 1 号墳出土遺物 (第11図 7)
図版11	1	第 1 号墳遺物出土状況 (14)		4 第 1 号墳出土遺物 (第11図 8)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (15)	図版23	1 第 1 号墳出土遺物 (第12図10)
図版12	1	第 1 号墳遺物出土状況 (16)		2 第 1 号墳出土遺物 (第12図11)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (17)		3 第 1 号墳出土遺物 (第12図12)
図版13	1	第 1 号墳遺物出土状況 (18)		4 第 1 号墳出土遺物 (第12図13)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (19)		5 第 1 号墳出土遺物 (第12図14)
図版14	1	第 1 号墳遺物出土状況 (20)	図版24	1 第 1 号墳出土遺物 (第13図)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (21)		2 第 1 号墳出土遺物 (第13図)
図版15	1	第 1 号墳遺物出土状況 (22)		3 第 1 号墳出土遺物 (第14図)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (23)	図版25	1 第 1 号墳出土遺物 (第14図)
図版16	1	第 1 号墳遺物出土状況 (24)		2 第 1 号墳出土遺物 (第15図)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (25)		3 第 1 号墳出土遺物 (第15図)
図版17	1	第 1 号墳遺物出土状況 (26)	図版26	1 第 2 号墳出土遺物 (第18図)
	2	第 1 号墳遺物出土状況 (27)		2 グリッド・表採遺物 (第26図)
図版18	1	第 2 号墳 (北から)	図版27	1 グリッド・表採遺物 (第27図表)
	2	第 2 号墳 (南から)		2 グリッド・表採遺物 (第27図裏)
図版19	1	第 1 号土壙墓 (1)		3 風倒木痕 1 出土遺物 (第28図)
	2	第 1 号土壙墓 (2)	図版28	1 立会調査出土遺物 (1) (第31図)
	3	第 1 号堅穴状遺構		2 立会調査出土遺物 (2) (第34図)

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県教育委員会では、確かな学力と自立する力の育成のため、特別支援学校教室の不足への対策事業を推進している。本報告書に係る県立特別支援学校教室不足対策事業は、県北部地域における特別支援学校教室不足に対応するため、県北部地域特別支援学校を開設するものである。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では、こうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、関係部局と調整を図ってきた。

当該事業については、工事計画に先立ち、埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課長より、平成21年10月20日付け教特第383号で埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて、生涯学習文化財課長あての照会があった。

生涯学習文化財課では、平成21年11月2日及び27日に遺跡所在及び範囲等確認のための試掘調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成21年12月1日付け教生文第1616-1号で次の内容の回答を行った。

1 埋蔵文化財の所在

名称(No.)	種別	時代	所在地	員数
塚原古墳群 (No.67-011)	古墳群	古墳	深谷市本田他	1

2 法手続

工事予定地内には、別図のとおり、上記の埋蔵文化財包蔵地が所在しますので、工事を行う場合には、工事着手前に文化財保護法第94条の規程による発掘通知を提出してください。

3 取扱い

別図「発掘調査を要する区域」について、工事計画上やむを得ず現状を変更をする場合には、記

録保存のための発掘調査を実施してください。同「工事立会が必要な区域」については、当課職員が立会調査を実施しますので、事前に日程・方法等について、当課と調整してください。

特別支援教育課・生涯学習文化財課・深谷市教育委員会は、その取扱いについて協議を重ね、現状保存は困難であることから記録保存及び工事立会調査の措置を講ずることになった。

その後、発掘調査実施機関である(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、特別支援教育課・生涯学習文化財課の三者で工事日程、調査計画、調査期間などについて協議した。

文化財保護法第94第1項の規定による埋蔵文化財発掘通知が特別支援教育課長から提出され、同条4項の規定により、記録保存のための発掘調査を実施するよう埼玉県教育委員会教育長から通知した。その後、文化財保護法第92条1項の規定による発掘調査届が(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、発掘調査が実施された。

発掘通知及び発掘調査届に対する県教育委員会教育長からの勧告と指示通知は次のとおりである。

発掘通知に対する勧告：

平成21年7月31日付け教生文第4-406号

発掘調査届に対する指示通知：

平成22年5月10日付け教生文第2-7号

また、工事立会調査は平成22年9月8日、10月18日、11月1日、同10日、12月1日、同22日、平成23年1月11日に実施し、数カ所で遺構を検出した。この結果については、本報告書に記載した。

(生涯学習文化財課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

塚原古墳群は県立特別支援学校教室不足対策事業の実施に先立ち、平成22年5月1日から平成22年7月31日まで実施した。調査面積は1,220㎡である。

5月初旬、重機搬入と掘削土運搬の際に校庭を保護するため鉄板敷設を行った。当初は調査区域内の東側に体育倉庫があったため、これを避けて安全対策の囲柵をした後、重機による表土除去作業を開始した。表土除去後、人力による遺構確認を行い、各遺構の精査を開始した。遺構は基準点測量の成果に基づき、順次土層断面図・平面図・遺物出土状況図を作成し、また、遺構ごとに土層断面・遺物出土状況・遺構の写真撮影を行った。

7月に調査区域内東側の体育倉庫の撤去が終了したため、安全対策の囲柵の一部を拡張した調査区を囲むように再度設置し直し、重機による表土除去作業を開始した。

表土除去の後、人力による遺構確認を行い、検出された遺構の精査を開始した。同様に遺構は基準点測量の成果に基づき、順次土層断面図・平面図を作成、また遺構ごとの断面・遺構の写真撮影を行った。

遺構精査の終了に伴い7月下旬に空中写真撮影を行った後、調査区の全景等の写真撮影を行った。調査区の埋め戻しは、まず、6月に数度にわたり、雨水による調査区壁の崩落を防止するため設置した土留め用の施設を撤去した後にいった。

埋め戻し終了後、廃土運搬のために敷設した鉄板の搬出を行った。

その後、遺物・器材の搬出・事務手続きを行い、全ての調査を終了した。

立会調査は、県生涯学習文化財課が、平成22年9月から平成23年1月までに7回に分けて実施した。

このうち、5つの地点で遺構が検出され、平面実測を行った。

(2) 整理報告書作成

上記の調査に係る整理報告書の作成事業は、平成23年6月1日から平成23年9月30日まで実施した。

作業は出土遺物の水洗・注記の後、直ちに接合・復元を開始した。復元を終えた遺物は、順次実測をし、破片は断面実測を行い採拓した。

実測図・断面図をトレースし、遺物実測図、断面と拓本を組み合わせたもので仮版組を行った。遺物実測図、断面と拓本を組み合わせた遺物を1点ずつ、スキャナーでコンピューターに取り込み、画像編集ソフトで遺構ごとに遺物図・遺物番号・スケールなどを貼り込み、印刷用の遺物図版を作成した。

8月末には、図版用の遺物をデジタルカメラで撮影し、報告書掲載写真の選択を行った。同時に、発掘調査で撮影したデジタル写真から、報告書掲載用の写真を選択した。画像をコンピューターに取り込み、画像編集ソフトで写真図版を作成し、編集を行った。

発掘調査で記録した遺構断面図や平面図などは、照合・修正を加えて第二原図を作成した。第二原図で遺構図の版組を行い、スキャナーでコンピューターに取り込んだ。その後、画像編集ソフトを用いて版ごとにトレースし、土層説明などのデータを組み込み、印刷用の図版を作成した。

9月下旬までに原稿執筆を終え、報告書の編集を行った。その後、印刷業者を選定して入稿した。

3回の校正を経て、平成23年11月末までに報告書（本書）刊行となった。

なお、図面や写真などの記録類や遺物は、9月末に整理・分類の上、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ収納した。

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成22年度（発掘調査）

理事長	藤野 龍 宏	調査部	
常務理事兼総務部長	萩 本 信 隆	調 査 部 長	小 野 美代子
総務部		調 査 部 副 部 長	昼 間 孝 志
総 務 部 副 部 長	金 子 直 行	主幹兼調査第一課長	富 田 和 夫
総 務 課 長	田 中 雅 人	主 査	山 本 禎

平成23年度（報告書作成）

理事長	藤野 龍 宏	調査部	
常務理事兼総務部長	根 本 勝	調 査 部 長	小 野 美代子
総務部		調 査 部 副 部 長	劔 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	金 子 直 行	主幹兼整理第一課長	細 田 勝
総 務 課 長	矢 島 将 和	主 査	山 本 禎

Ⅱ 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

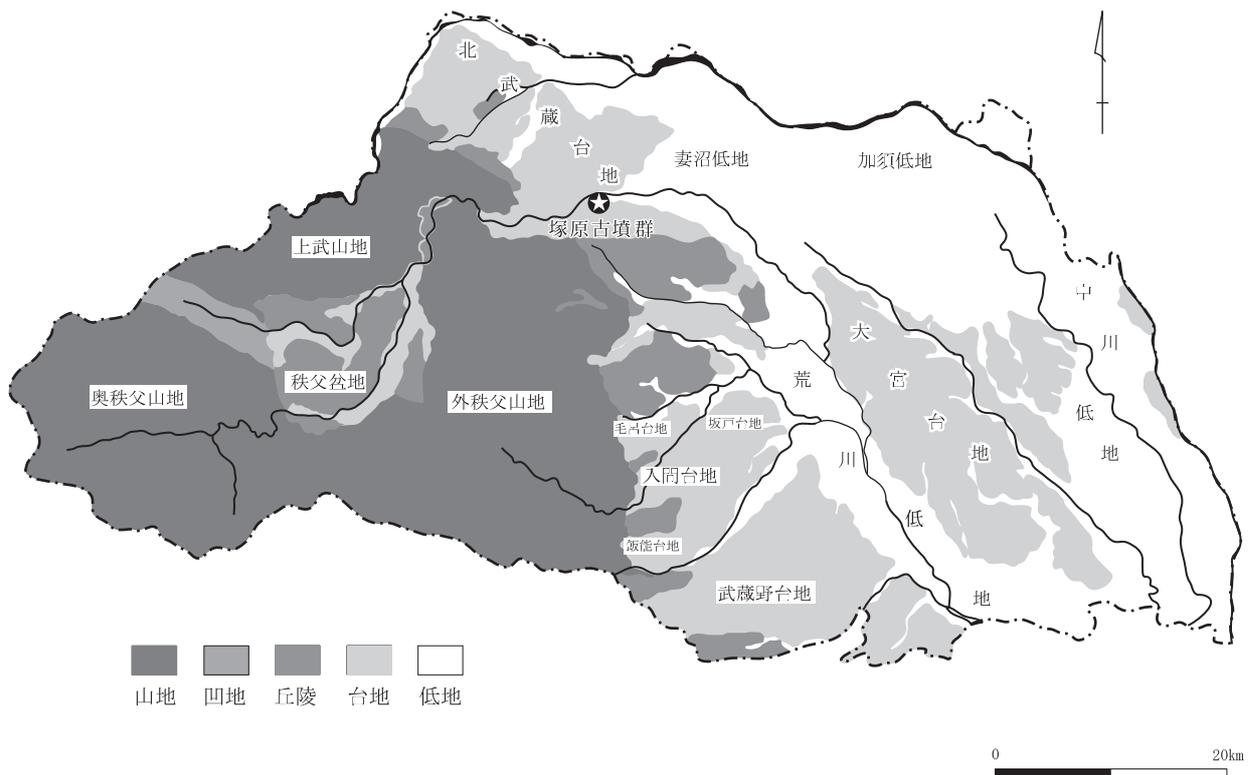
塚原古墳群は埼玉県北部、深谷市本田に所在し、秩父鉄道武川駅の南方1.2kmの荒川右岸の河岸段丘上に立地している。

埼玉県の地形は、西部地域は秩父山地を中心とした山地と山地東縁から派生する丘陵や台地からなる。東部地域は、荒川や利根川などにより、大宮台地を取り囲むように、荒川低地や妻沼低地、加須低地が形成されている。

西部地域の地形は上武山地や秩父山地から流れ出る荒川が、寄居町波久礼付近を扇頂とした荒川扇状地を形成している。荒川扇状地では荒川が流路を変えながら現在までにいくつもの河岸段丘を

発達させてきた。荒川左岸には櫛引面、御稜威ヶ原面、寄居面、瀬山面などの河岸段丘が形成されている。一方、荒川の右岸は江南面と寄居面によって段丘が形成されている。南岸の江南面（江南台地）、北岸の櫛引面（櫛引台地）は、最も古い段丘と考えられている。

塚原古墳群が立地する河岸段丘は、江南面より一段低い寄居面に位置している。遺跡の北側は崖状になり、その下を荒川が流れている。遺跡の南側や周辺は宅地、畑地、水田が混在した平坦な地形となっている。



第1図 埼玉県の地形

2. 歴史的環境

遺跡は、塚原古墳群が立地する荒川右岸の河岸段丘上および江南台地上に多く、左岸の櫛引台地上には少ない傾向がみられる。

旧石器時代の遺跡は、江南台地の支谷に面した白草遺跡で細石刃や彫刻刀形石器などがまとまって発見されている。また、荒川左岸の櫛引台地上からはナイフ形石器が採集されているが、旧石器時代の遺跡数は多くない。

縄文時代になると江南台地や櫛引台地上に多くの遺跡が営まれる。

草創期の遺跡は、櫛引台地上の西谷遺跡や荒川左岸の宮林遺跡、沢口遺跡などがあり爪形文や押圧縄文土器が出土した。江南台地では四反歩遺跡で槍先形尖頭器、有舌尖頭器が採集されている。

早期では四反歩遺跡で撚糸文期の住居跡7軒が調査されている。

前期では竹之花遺跡、円阿弥遺跡、権現堂遺跡などで黒浜期から諸磯 a 期にかけての小規模集落が存在することが明らかになった。江南台地の微高地に位置する山ノ腰遺跡では黒浜期と諸磯 a ～ c 期にかけての包含層が調査された。

中期では舟山遺跡で勝坂から加曾利 E II 式、江南町西原遺跡で加曾利 E III ～ IV 式の集落が検出され、上本田遺跡では勝坂式から加曾利 E III 式期の大集落が調査されている。

後期になると遺跡は減少し、山ノ腰遺跡、四反歩遺跡で堀之内式期の小集落が検出されている。晩期終末には、櫛引台地北部低地の上敷免遺跡で在地の土器とともに東海系の条痕文土器や遠賀川系の壺が検出されている。

弥生時代の遺跡は、畠山館跡で前期の再葬墓が単独で発見された。後期になると台地の支谷に面して吉ヶ谷式期の集落が営まれた焼谷遺跡、万願寺遺跡、白草遺跡、荷鞍ヶ谷戸遺跡などがある。

古墳時代の集落は、前期の荒川右岸の東伴場地遺跡、中柴遺跡、上寺西遺跡などがある。上西寺

遺跡は五領式期から和泉式期まで継続する集落である。江南台地には和泉期の集落である円阿弥遺跡、白草遺跡、鬼高期の集落である権現堂遺跡が発見されているが密度は低い。荒川右岸の河岸段丘上の寄居面には川端遺跡や如意遺跡、如意南遺跡があり、5世紀末から10世紀まで続く集落である。

如意遺跡では、340軒を超える古墳時代後期の住居跡に加えて、掘立柱建物跡も検出されている。また、3,000点以上の土錘が出土している。如意遺跡に隣接する如意南遺跡でも古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡が調査され、古墳時代の住居跡は10軒ほど確認されている。また、川端遺跡で古墳時代の住居跡10軒が確認されている。

古墳群は、荒川の両岸に分布している。左岸には上流から深谷市小前田古墳群、黒田古墳群、見目古墳群があり、櫛引台地上に長在家古墳群、熊谷市三ヶ尻古墳群がある。右岸段丘上には小園古墳群、箱崎古墳群、塚原古墳群、鹿島古墳群が分布している。また、江南台地の縁辺には上大塚古墳群、清水山古墳群がある。

小前田古墳群は帆立貝式前方後円墳1基と円墳によって構成される。内部主体は川原石積みの横穴式石室で、短冊形の狭長な石室や胴張形石室がみられ、6世紀前半から7世紀初頭の築造と考えられる。

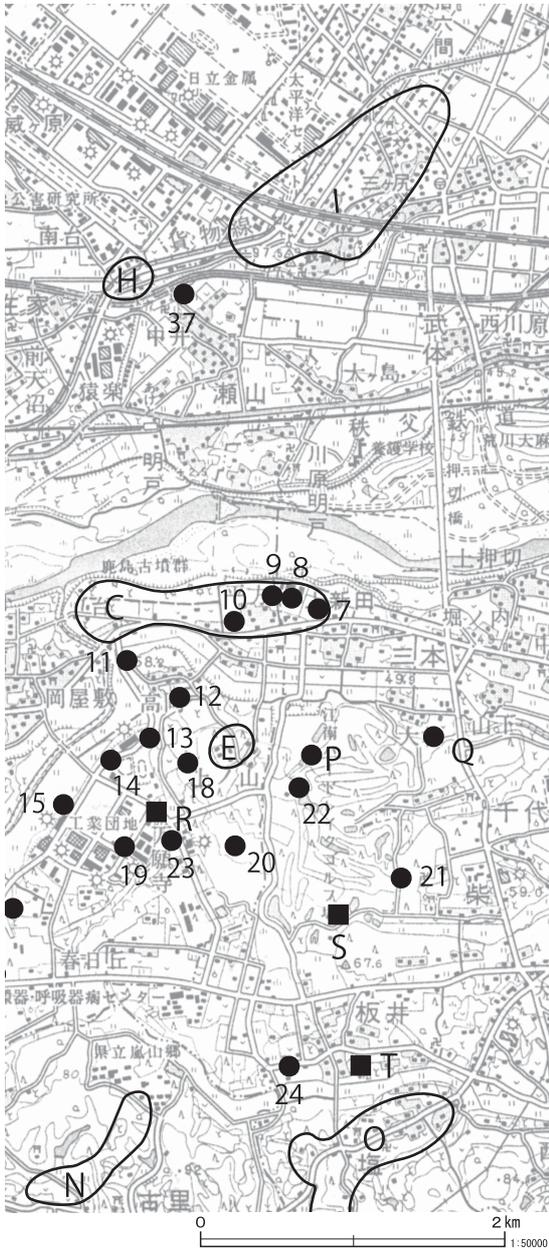
黒田古墳群はかつて30基以上が存在しており、帆立貝式の前方後円墳1基と円墳で構成されていた。円墳の主体部は川原石積みの短冊形の横穴式石室が主体であるが、胴張形石室もみられ、L字形石室も検出されている。鉄製馬具・金銅製雲珠等も出土し、埴輪を持ち6世紀代の築造と考えられる。

見目古墳群は数基の古墳で構成されており、そのうち2基の円墳が調査された。1号墳は墳丘に



- | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|----------|--------------|------------|
| A 塚原古墳群 | B 箱崎古墳群 | C 鹿島古墳群 | D 上大塚古墳群 | E 清水山古墳群 | |
| F 黒田古墳群 | G 見目古墳群 | H 長在家古墳群 | I 三ヶ尻古墳群 | J 小前田古墳群 | |
| K 小園古墳群 | L 伊勢原古墳群 | M 赤浜古墳群 | N 古里古墳群 | O 塩古墳群 | |
| P 姥ヶ沢埴輪窯跡 | Q 権現坂埴輪窯跡 | R 諱光寺廃寺 | S 寺内廃寺 | T・U 出雲乃伊波比神社 | |
| V 小被神社 | | | | | |
| 1 如意遺跡 | 2 川端遺跡 | 3 如意南遺跡 | 4 畠山館跡 | 5 本田館跡 | 6 上本田遺跡 |
| 7 新田裏遺跡 | 8 平方裏遺跡 | 9 鹿島平方裏遺跡 | 10 鹿島遺跡 | 11 山ノ腰遺跡 | 12 舟山遺跡 |
| 13 竹之花遺跡 | 14 白草遺跡 | 15 円阿弥遺跡 | 16 権現堂遺跡 | 17 焼谷遺跡 | 18 荷鞍ヶ谷戸遺跡 |
| 19 四反歩遺跡 | 20 百済木遺跡 | 21 天神谷窯跡 | 22 西原遺跡 | 23 万願寺遺跡 | 24 岩比田遺跡 |

第2図 周辺の遺跡分布



- | | | |
|----------|------------|----------|
| 25 桜沢窯跡 | 26 露梨遺跡 | 27 上寺西遺跡 |
| 28 中柴遺跡 | 29 東伴場地遺跡 | 30 庚申塚遺跡 |
| 31 台耕地遺跡 | 32 赤浜天神沢遺跡 | 33 薬師入遺跡 |
| 34 東原遺跡 | 35 沢口遺跡 | 36 猪ノ堀遺跡 |
| 37 大門遺跡 | 38 宮林遺跡 | |

葺石が施され埴輪を有する川原石積みの無袖型横穴式石室で、天井石には緑泥片岩が用いられている。金銅製八角鈴・刀装具・鉄鏃などが出土している。2号墳は胴張型石室で川原石と片岩を用いた石室である。古墳群は6世紀末から7世紀代の築造と考えられる。

長在家古墳群はかつて30基程の古墳が分布しており、前方後円墳・方墳と円墳で構成されていたと推定される。このうち、墳形は不明であるが、ごんだ塚古墳が調査され副室構造の横穴式石室をもつことが確認されている。

三ヶ尻古墳群は前方後円墳2基と58基以上の円墳でからなる古墳群で、6世紀代からの築造と考えられる。三ヶ尻林4号墳は墳丘に二段の葺石帯があり、中段に形象埴輪や円筒埴輪が樹立されている。川原石積みの横穴式石室で大刀・刀装具・鉄鏃・銅釧などが副葬されていた。

箱崎古墳群は、荒川右岸の第二段丘上にあり、かつては大円墳も所在したという伝承がある。30基以上の古墳が確認され、葺石がある古墳もあり、埴輪が出土している。調査された1号墳・2号墳の主体部は川原石積みの胴張形石室で、6世紀後半から7世紀にかけての築造と考えられる。

塚原古墳群は、前方後円墳の蛤塚古墳と円墳十数基が知られていたが、消滅し現存しない。蛤塚古墳からは太刀・刀子・頭椎柄頭・鉄製鐔・ガラス製小玉が出土したとされている。これまで3基が調査され、円筒埴輪、形象埴輪が出土している。主体部は川原石積みの横穴式石室で、無袖型の短冊形石室と緩やかな胴張形石室があり、刀子・鉄鏃・直刀・耳環・鐔などの副葬品がある。

鹿島古墳群は、荒川に沿って南北200m、東西1200mの範囲に100基以上の円墳のみで構成された荒川右岸最大の古墳群である。主体部は川原石積みの胴張形横穴式石室で、奥壁や玄門部に緑泥片岩を用いた古墳もあり、埴輪を樹立した古墳も確認された。6世紀後半から築造が始まり7世紀

後半代に全盛期を迎えている。

古墳群には、盟主墳的な前方後円墳・帆立貝式前方後円墳・大型円墳と円墳で構成されている小前田古墳群・黒田古墳群・長在家古墳群・三ヶ尻古墳群・箱崎古墳群・塚原古墳群があるが、一方で盟主墳を持たず、円墳のみで構成されている鹿島古墳群がある。

塚原古墳群の西方には、古墳時代後期から平安時代にわたる如意遺跡、川端遺跡がある。土錘を大量に出土した漁労にかかわる集落で、古墳築造にも深くかかわった集落と考えられる。

生産遺跡として江南台地北縁の段丘崖線に姥ヶ沢埴輪窯跡があり、8基の埴輪窯跡が検出された。2条突帯の円筒埴輪が主体で、大型品を含み、朝顔形埴輪もみられる。また、人物埴輪のほか馬や鹿などの動物形埴輪も出土しており、6世紀初頭にまで遡る窯跡と考えられている。

権現坂埴輪窯跡は姥ヶ沢埴輪窯跡の東方約800mの江南台地北縁にあり、南に入り込む支谷で東群と西群に区分される。東群では3基の窯跡と粘土採掘坑、工房跡が確認されている。粘土採掘坑から盾持人物埴輪が出土した。西群では4基の窯跡が確認されている。円筒埴輪が主体であるが、朝顔形埴輪のほか形象埴輪では人物・馬形・鞍形埴輪が出土している。

奈良・平安時代の遺跡は、荒川南岸部では古墳時代から継続して営まれることが多く、如意遺跡や川端遺跡、如意南遺跡などがある。また、鹿島古墳群内にある鹿島遺跡、鹿島平方裏遺跡と熊谷市平方裏遺跡、新田裏遺跡を含めると東西600m、南北200mの範囲に広がる集落遺跡が存在する。

如意遺跡では150軒以上の住居跡、掘立柱建物跡10棟が検出されている。如意南遺跡は古墳時代から続く集落で、土錘や紡錘車のほか帯金具が出土している。

川端遺跡では5軒の住居跡が検出され、緑釉陶器が出土している。

鹿島平方裏遺跡は奈良時代を中心とした集落で、墨書土器や帯金具を出土している。新田裏遺跡も奈良時代の集落である。鹿島遺跡は平安時代の集落である。

江南台地では、竹之花遺跡、白草遺跡、円阿弥遺跡、四反歩遺跡の集落や、8世紀前半の瓦を出土した荷鞍ヶ谷戸遺跡、小金銅仏を出土した諦光寺廃寺などがある。

百済木遺跡では8世紀初頭に柵列で区画された堅穴住居跡と掘立柱建物跡で構成された建物群が2か所で確認されている。青銅製帯金具、銅鈴、墨書土器が出土し、豪族の居宅と推定されている。

また、百済木遺跡の南東にある寺内廃寺では、南から南門・中門・金堂・講堂が直線的に配置され、金堂の東に塔が立てられた伽藍配置が確認された。寺地内の集落跡から、「花寺」・「石井寺」・「東院」などの墨書土器も出土している。寺内廃寺の創建は8世紀前半と推定され、9世紀前半に再建され、10世紀末には廃絶したと考えられている。寺内廃寺周辺には、論社ながら式内社の出雲乃伊波比神社や円面硯を出土した岩比田遺跡などがある。

中世では、深谷市本田から畠山周辺が畠山重忠の本拠地と伝えられ、畠山館跡、万福寺、井椋神社、鶯の瀬など重忠ゆかりの地名と伝承が残っている。

畠山館跡の南東1.5kmには家臣の本田親常の館と伝えられる本田館跡がある。

百済木遺跡では14～15世紀の寺院跡が発掘され、古名に残る万願寺と推定されている。

赤浜天神沢遺跡では鎌倉街道上道と考えられる道路状遺構が検出されている。

Ⅲ 遺跡の概要

塚原古墳群は、深谷市の荒川右岸沿いの河岸段丘上に立地する。かつては、前方後円墳の蛤塚古墳を中心に数十基の古墳が存在したといわれているが、昭和33年の分布調査では8基が確認されたにすぎず、墳丘が確認できる古墳は現存していない。

古墳群は荒川に沿って東西に広がり、東西600m、南北200mの範囲に分布する。前方後円墳1基と円墳からなる古墳群である。

前方後円墳である蛤塚古墳は、塚原古墳群の盟主墳と考えられる。墳丘は残っておらず、昭和8年から9年頃に粘土で固められた川原石の石組(石室)から、太刀・刀子が出土したという記録が残っている。現在、長瀬総合博物館に所蔵展示されている金銅製の頭椎柄頭・鉄製無窓罈・ガラス製小玉が蛤塚古墳出土とされている。

また、最後まで残っていた3基の円墳が昭和43年に農業構造改善事業のために発掘調査された。1号墳は墳丘がほぼ残っており、墳丘径16.5mの円墳で、幅3.5m程の周溝が確認され、南側にブリッジが設けられている。主体部は川原石を用いた無袖型横穴式石室で、副葬品は耳環4、刀子4、鉄鏃2、弓金具1、太刀1が出土している。2号墳は墳丘の一部が残り、川原石を用いた石室の一部が残存していた。周溝は一部の調査であるが、円筒埴輪・形象埴輪・鬼高式の土師器坏が出土している。3号墳は墳丘が削平されていたが、墳丘径23mで幅4～8m程の周溝がまわっていた。主体部は、川原石積みの無袖型横穴式石室で弱い胴張りがある。石室の周囲は川原石を積んだ裏込め施設がある。副葬品は刀子1、鉄鏃2、罈1がある。周溝からは筒埴輪片や形象埴輪片が出土している。これまで調査されてきた円墳は、川原石積みで短冊形とやや胴張形の横穴式石室が確認されている。また、埴輪は円筒埴輪と形象埴輪を持つ

古墳群である。副葬品は、耳環、刀子、罈、鉄鏃、弓金具などがある。

今回の調査区は、高校の校庭造成のため、1.5m～2m程削平され、更に部分的にトレンチ状の攪乱を受けており、遺構確認面は南端部のみに残されていた。確認された遺構は古墳跡2基、土壙墓1基、竪穴状遺構1基、土壙5基、ピット113基の他に風倒木痕が2か所みられた。

古墳時代の遺構は古墳跡2基と土壙墓1基である。古墳跡は墳丘が削平され、周溝のみが検出された。両古墳とも一部が調査区域外へ広がっているが、円墳跡である。第1号墳は、円筒埴輪が墳丘から周溝内に転落、横転した状態で出土し、形象埴輪は検出されなかった。また、周溝内から埴輪とともに川原石が多数検出されている。第2号墳は、第1号墳の北東に位置し、周溝は南側では確認できたが北側では周溝の痕跡程度であり非常に浅く溝底が確認できたのみで、出土遺物も第1号墳のように周溝内に転落したような状況は見られず、円筒埴輪片を出土したのみである。土壙墓は第1号墳の北4mにあり、隅丸長方形のものである。遺物は出土しなかったが、覆土は古墳跡周溝と同様であり、古墳時代のものと判断した。

中世の遺構として、竪穴状遺構、土壙、ピットが検出された。これらの遺構は、遺構確認面まで削平が及ばなかった第1号墳の南側に検出された。それに対し、墳丘内には極めて少なく、古墳跡があった範囲は中世段階まで集落域に取り込まれなかったことが窺える。竪穴状遺構は、浅い掘り込みを持ち、土間状の底面は一部硬化していた。全体の規模は不明である。土壙は5基確認されたが、性格は不明である。ピット群は、明確な規則性が把握できなかった。遺物は、ピット覆土から陶器片が少量出土した。



第3図 調査区位置図



第4図 調査区全体図

IV 古墳時代の遺構と遺物

1. 古墳跡

第1号墳 (第5～9区)

調査区南西部のC・D-2・3グリッドに位置する。西側は調査区域外に延びているため全体の2/3ほどを検出したにとどまる。北4mに第1号土壙墓、北東7mに第2号墳がある。

南西に向くブリッジを持つ円墳で、墳丘径14.4m、周溝径17.0mを測る。墳丘盛土はすでに削平されており、内部主体等は検出されなかった。周溝はほぼ同じ幅で、ブリッジ西側の周溝は、周溝上部が他より削平されているため最も幅が狭いが、ブリッジ東側の周溝外周側は上部の削平が少なく残りが良い。周溝の幅は1.6m～2.2m、深さ15～55cmを測る。北側の周溝底面は段差があり、段差の西側は深さ15cm、段差の東側が深さ40cmと深くなっている。南東側では浅くなり一部が掘り窪められている。ブリッジ東側の削平が少ない周溝外周部分では、深さ55cmを測る。ブリッジは僅かに南西方向を向き主軸方位はN-19°-Eを指す。

円筒埴輪は、周溝内に溝底からやや浮いた状態で出土している。また、川原石もほとんどが埴輪と同じ高さで出土している。

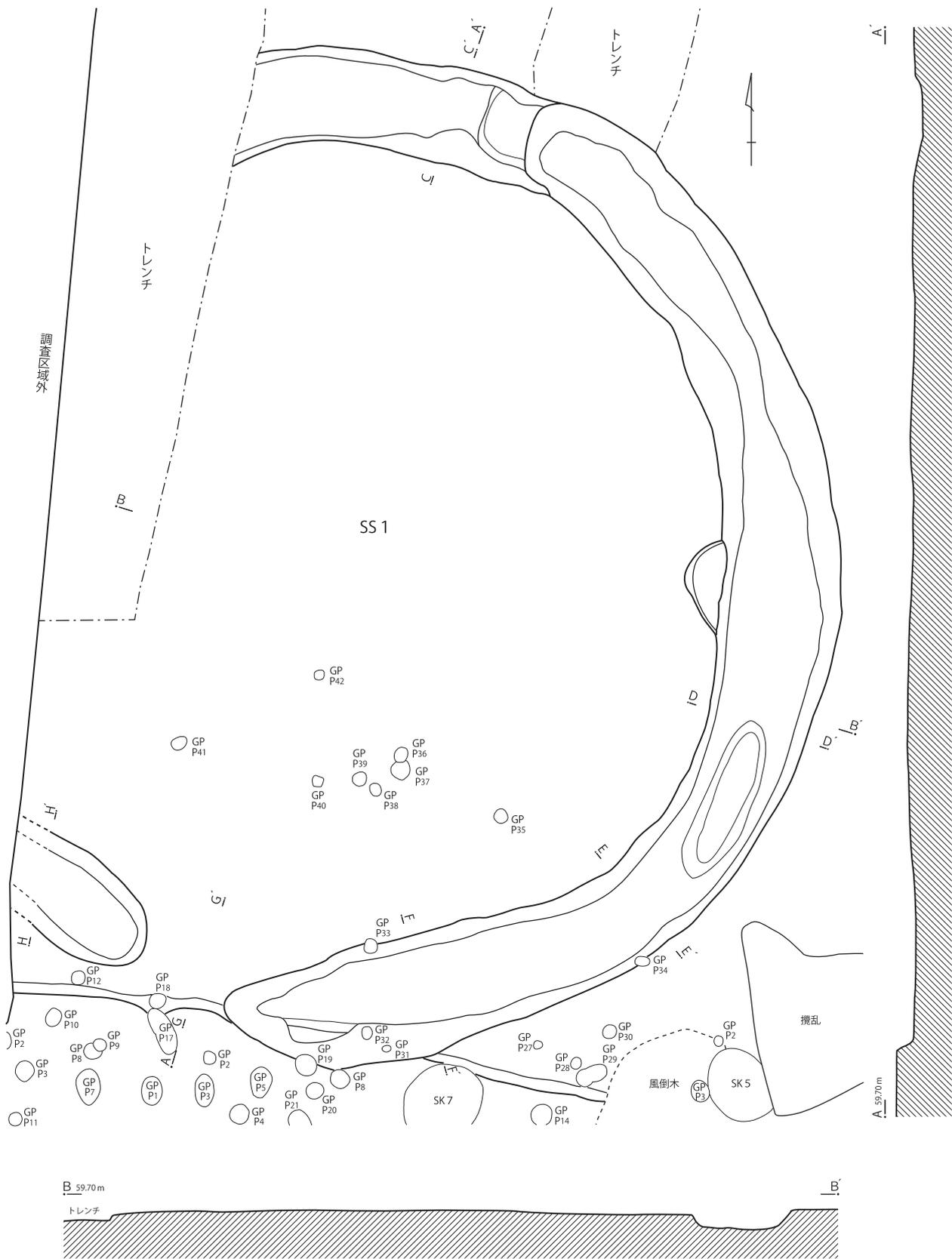
円筒埴輪は、北側周溝で2個体(1・2)が50cm程離れて出土している。北東側周溝では北側周溝の1・2から4m程離れて2個体(3・4)があり、3と4は50cm程離れて出土している。東側周溝では、北東側周溝の3・4から3m程離れて4個体(5～7・9)が1m前後の間隔で出土している。南東側周溝には、東側周溝の南端の9から2m程離れて1個体(8)が出土している。さらに9から南西に1.5m程離れて3個体(10・11・13)が1.5mの範囲に近接して出土している。南側周溝では、13から更に西方向へ3.5m離れたブリッジ寄りに2個体(12・14)が近接して出土している。

埴輪は、周溝に転落した状況で検出されたため、墳丘裾の本来の設置位置は不明であるが、東側周溝の4個体(5～7・9)が1m前後の間隔で等間隔に並んでいるが、他は等間隔に並べられたのではなく、8の1個体を除き、2～3個体を1グループとし近接して設置し、グループごとに間隔を持って設置された状況を示している。

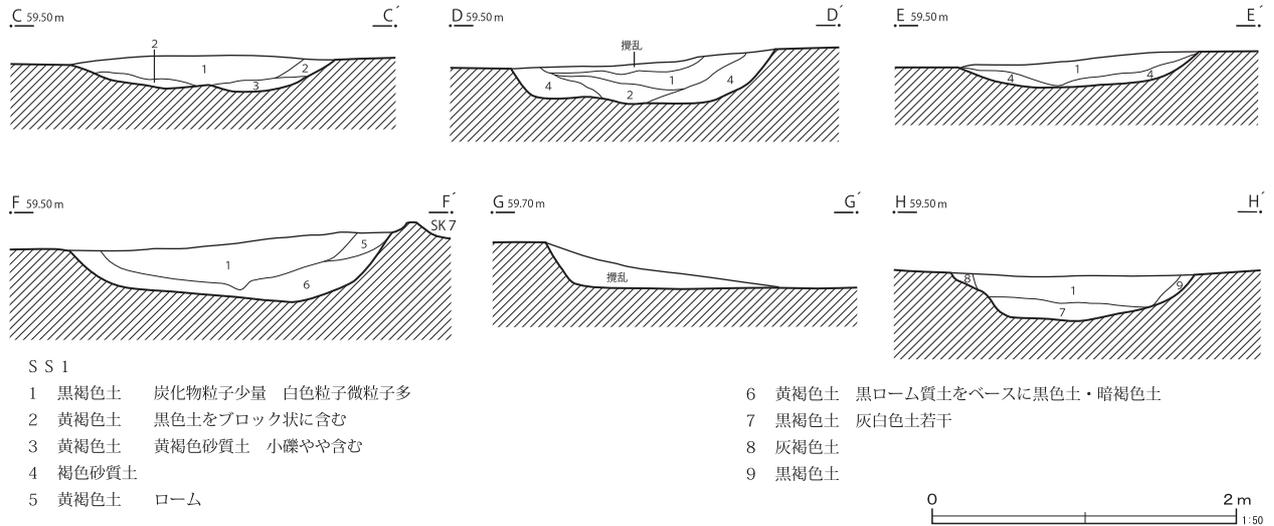
出土遺物

円筒埴輪(第10～15区)いずれも2条突帯3段構成である。大きさは口径23.8～28.5cm、器高33.7～38.0cm、底径11.8～17.3cmを測る。各段の長さは第1段長11.0～15.3cm、第2段長9.3～12.0cm、口縁長10.6～14.3cmを測る。2・5・10は各段がほぼ等間隔に区分され、3は第1段が伸長化している。他のものは概ね第2段が第1段・口縁部の長さより短くなっている。突帯は低いM字形、透孔は第2段に対になるよう反対側にも設けられた二つの円孔である。外面調整は一次縦ハケのみで、内面調整は口縁部に横ないし斜ハケを施し以下は縦位の指ナデのものがある。口縁部内面に「X」のヘラ描きがみられるものが2～6・9・11・12と7個体が出土している。口唇部は屈曲をもち外反するものが多いが、3のようにそのまま立ち上がるもの、6のように口唇部が横へ突出し上面が平らになるものがある。端部は角状が多い。基部の接合方向が解るものは少なく、11・91が右回りに粘土板を接合している。

1・4～8は口縁部内面の斜ハケが指ナデによって磨り消されている。15～25は口縁部の破片で、口唇部で屈曲をもち外反する。口縁部内面に斜ハケが施されているが、23はナデ消されている。26～62は突帯があるもので、透孔があるものは28・36・39・41～45・50～52で第1段第と第2段と第2段の破片であることが判るが他は不明であ



第5図 第1号墳(1)



第6図 第1号墳(2)

る。胎土に砂粒、小礫を含むものが多い。64～83は部位が判らない。84～93は基底部で、基部接合が確認できたものは91で右回りに粘土板を接合しているが、他は確認できなかった。

焼成は、酸化焰焼成が主体であるが、3・10・18は還元焰焼成となり須恵質となっている。酸化焰焼成のもの色調は、概ね赤味が強く赤褐色を呈するものが多い。胎土には、砂粒・小礫を含んでいる。

第2号墳(第16・17図)

調査区北東部のB・C-4グリッドを中心に位置する。南西7mに第1号墳、西10mに第1号土壙墓がある。東側は調査区域外に延びており全体の7割ほど検出できた。墳丘盛土だけでなく遺構確認面以下も削平されており、内部主体等は検出されなかった。

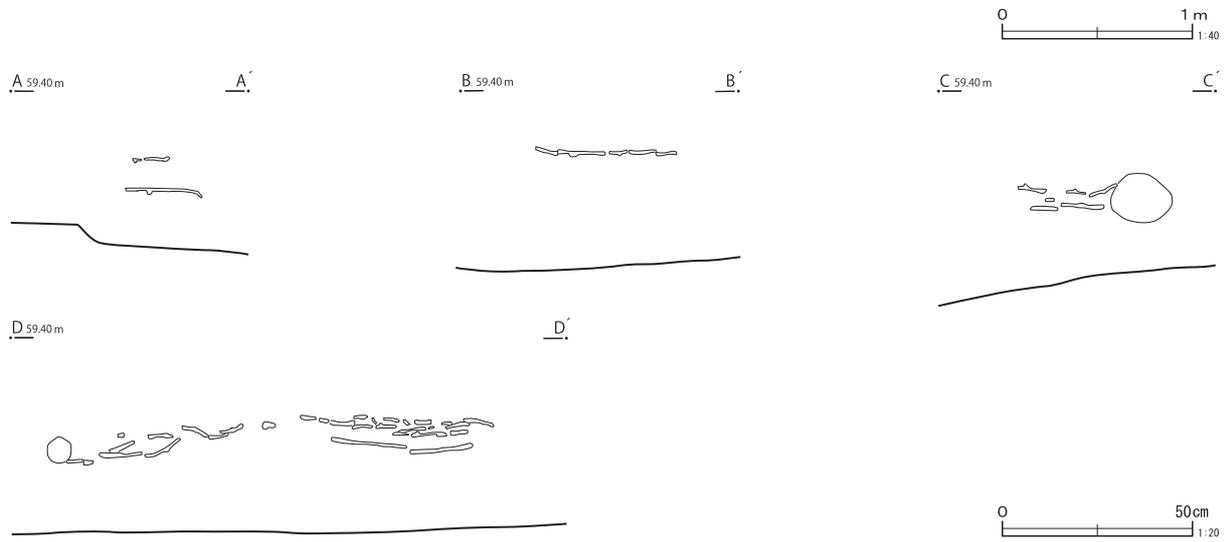
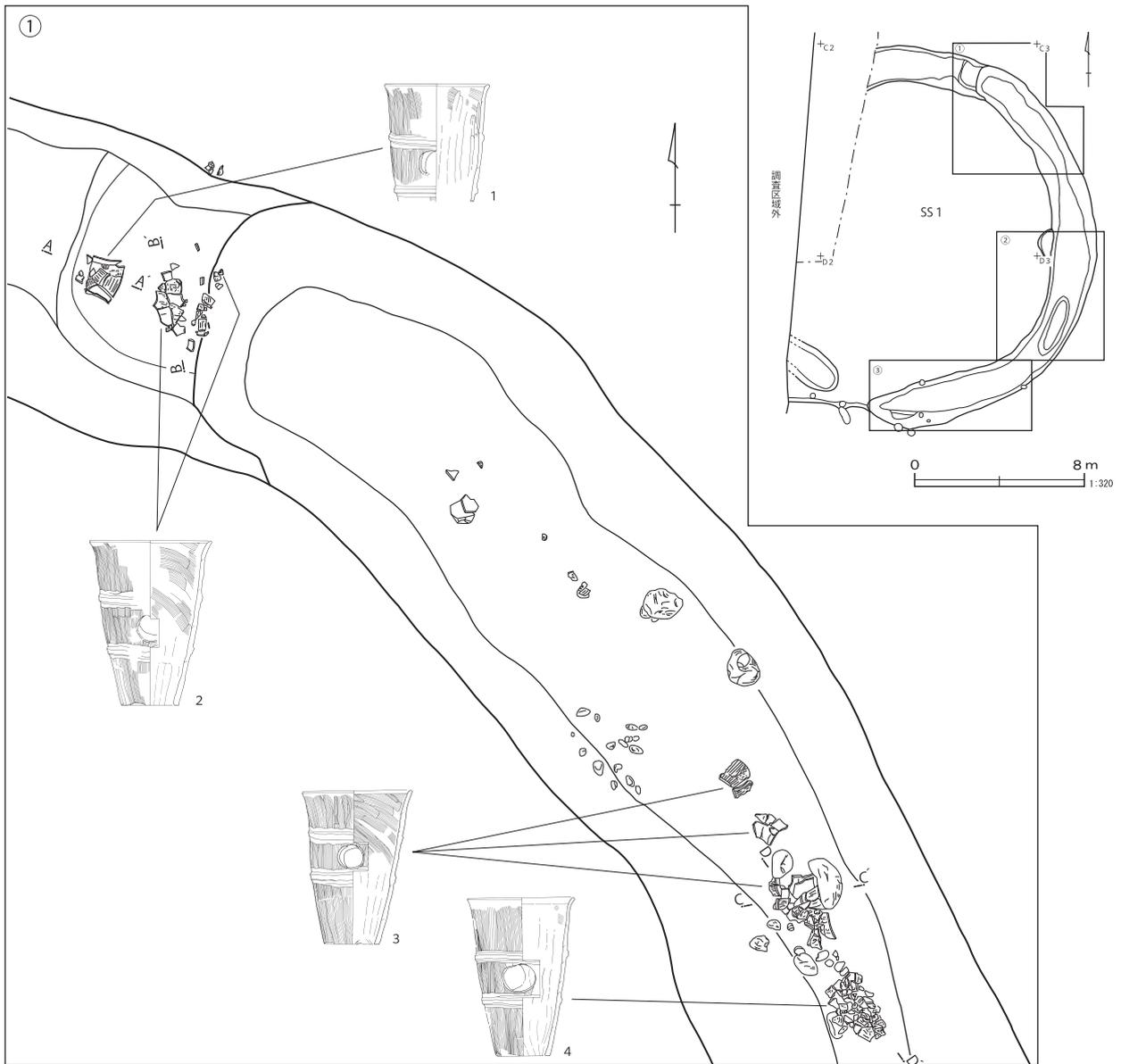
周溝は、南西側と西側が途切れており、深さは5～6cm程で立ち上がりの壁がほとんどなく、周溝底をかるうじて確認できたような状況である。周溝は途切れているが、周溝底の浅いところが途切れているように確認できるだけで、ブリッジは無く周溝が全周すると推定される円墳で、墳丘径

15.8m、周溝径18.3mを測る。周溝は僅かであるが北が高く、南が低い。周溝の幅は北西側が最も広く1.65m、他は同様の幅で1.05m～1.35m、深さは北から北西側は1～2cmで、南西から南側は18cmを測る。周溝底面はほぼ平坦であるが、北が高く南が低くなっており比高差は20cm程ある。古墳南半の周溝で小礫が若干出土しているが、流入したものと推定できる。

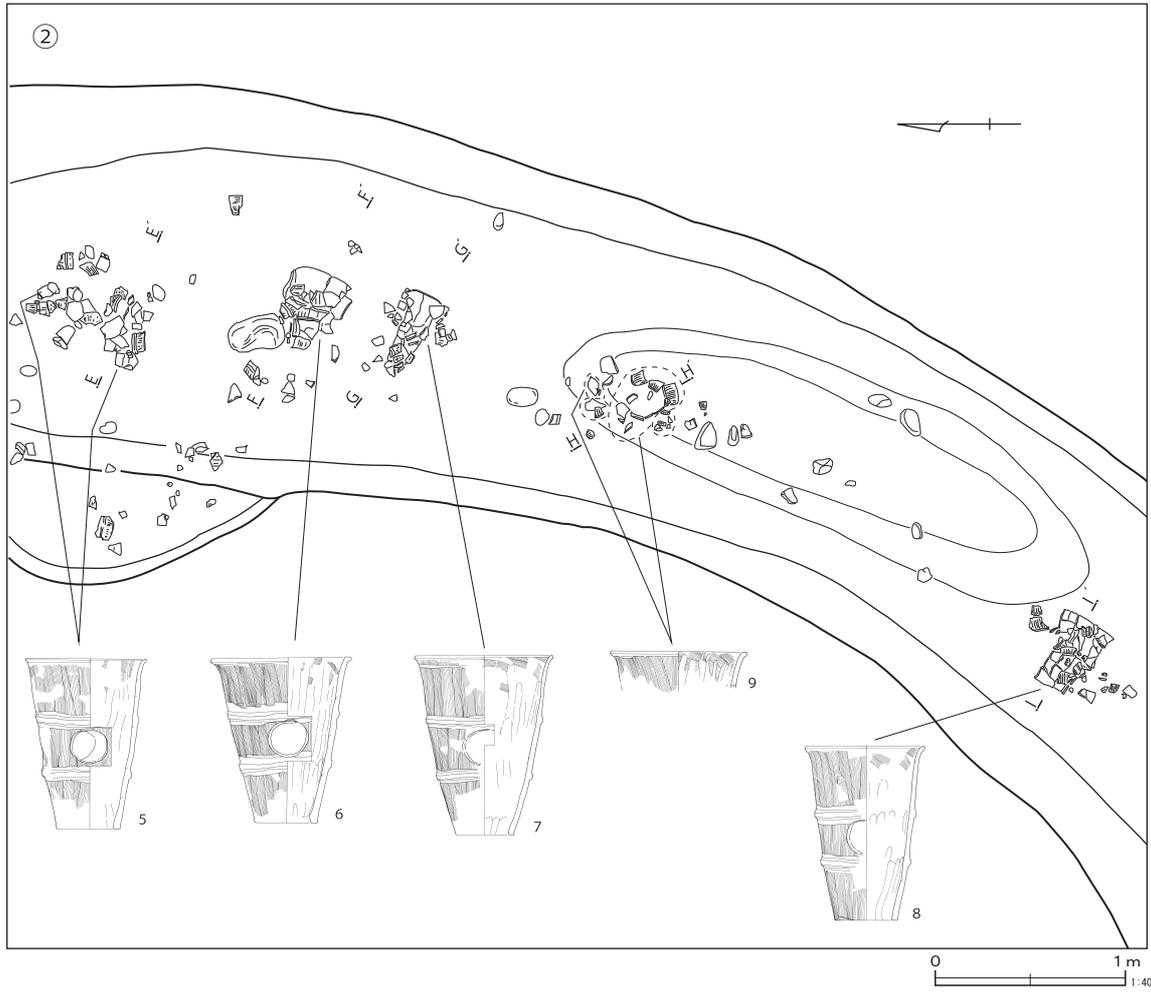
出土遺物

円筒埴輪(第18図)

円筒埴輪は、トレンチが南側の周溝を壊している部分から出土した。いずれも第1号墳と同様に2条突帯3段構成の円筒埴輪と推定される。外面は縦ハケ、内面は斜ハケとナデが施されるものの2種類がある。1は口縁部の破片で、第1号墳の円筒埴輪の口縁部と異なり、僅かに屈曲はするものの端部は丸くなっている。2は埴輪胴部の一部である。3～6は突帯をもつもので、第1号墳に比べ高さが低くなっている。5は突帯の下端部がみられる。6は透孔があるものである。7は基底部で接合痕は見られなかった。



第7图 第1号墳遺物出土状況(1)



E 59.40 m

E'

F 59.40 m

F'

G 59.40 m

G'

H 59.40 m

H'

I 59.40 m

I'

0 50 cm
1:20

第8図 第1号墳遺物出土状況(2)

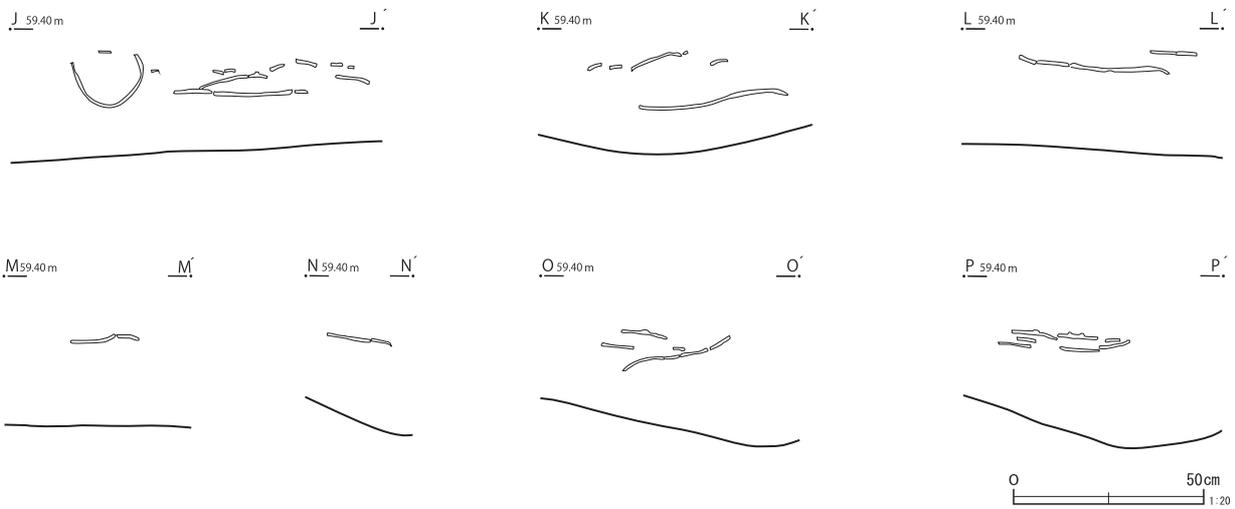
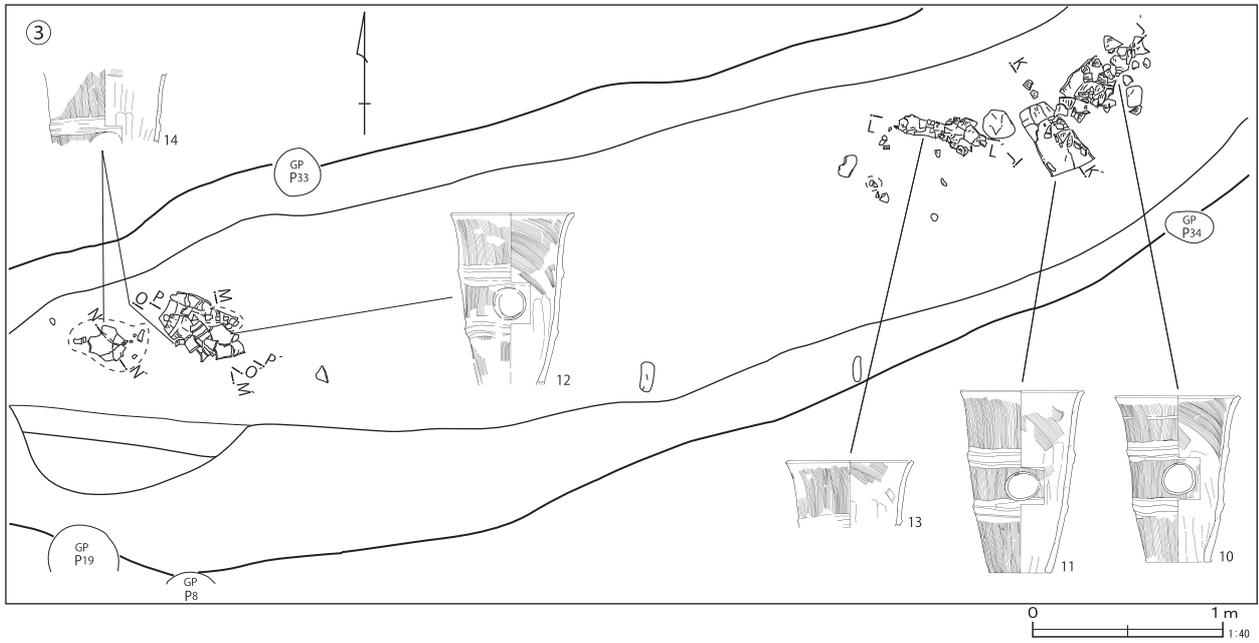
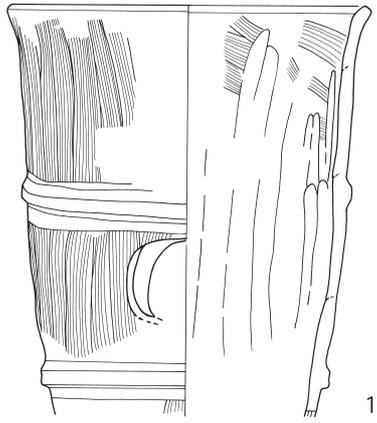


図9 第1号墳遺物出土状況(3)

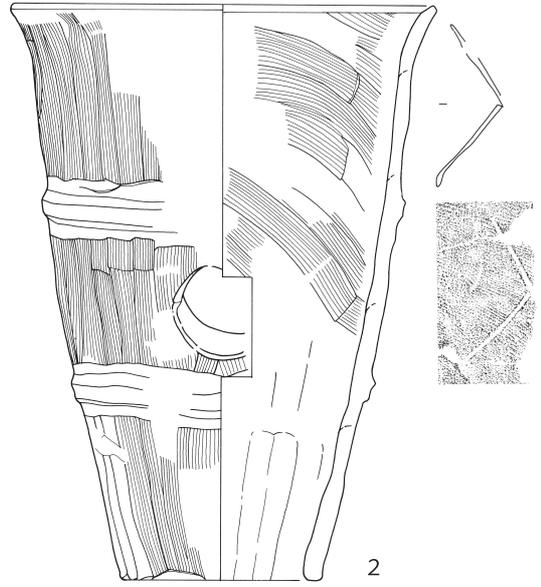
第1表 第1号墳出土円筒埴輪計測表(第10~12図)

(単位: cm)

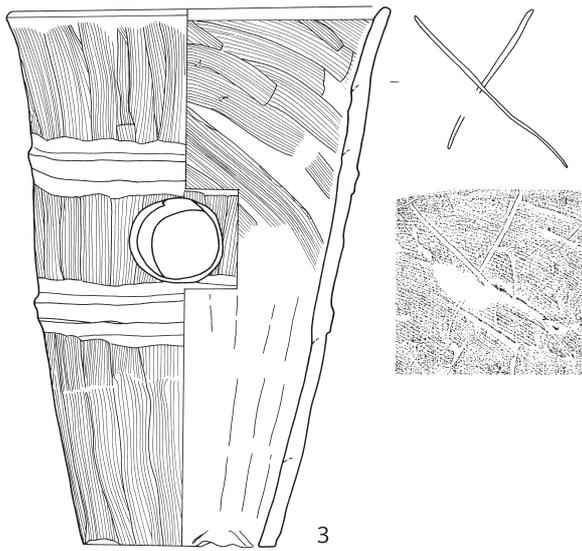
番号	器種	口径	器高	底径	1段長	2段長	口縁長	透孔縦×横
1	円筒	(23.8)				11	13.6	6.9×-
2	円筒	(28.0)	38.0	13.3	12.5	12.0	13.5	×
3	円筒	25.0	35.2	12.5	15.3	9.3	10.6	5.5×6.6
4	円筒	(24.5)	36.5	12.0	12.5	10.5	13.5	7.5×7.6
5	円筒	24.7	35.0	(13.0)	11.0	11.5	12.5	6.8×7.7
6	円筒	28.3	33.7	(12.7)	12.0	10.0	11.7	7.3×8.6
7	円筒	(28.5)	36.7	(11.8)	12.3	10.7	13.7	×
8	円筒	24.6	35.8	12.5	11.8	9.7	14.3	×
9	円筒	28.0						×
10	円筒	25.8	34.3	13.5	11.0	11.8	11.5	6.6×6.7
11	円筒	25.5	37.3	13.0	12.2	11.3	13.8	5.8×7.2
12	円筒	25.5				11.5	12.4	-×7.0
13	円筒	(26.0)					12.5	×
14	円筒							×



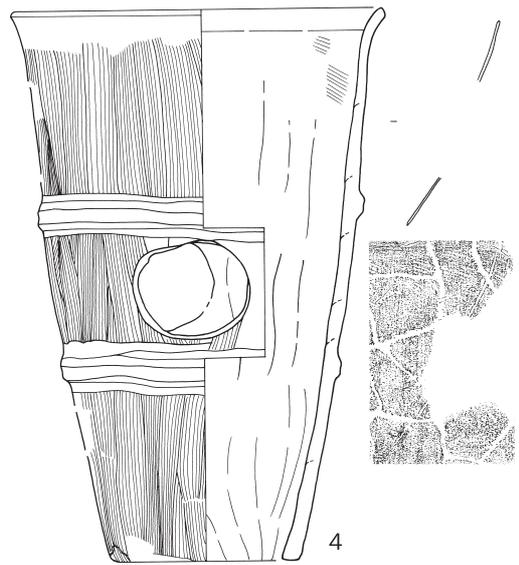
1



2



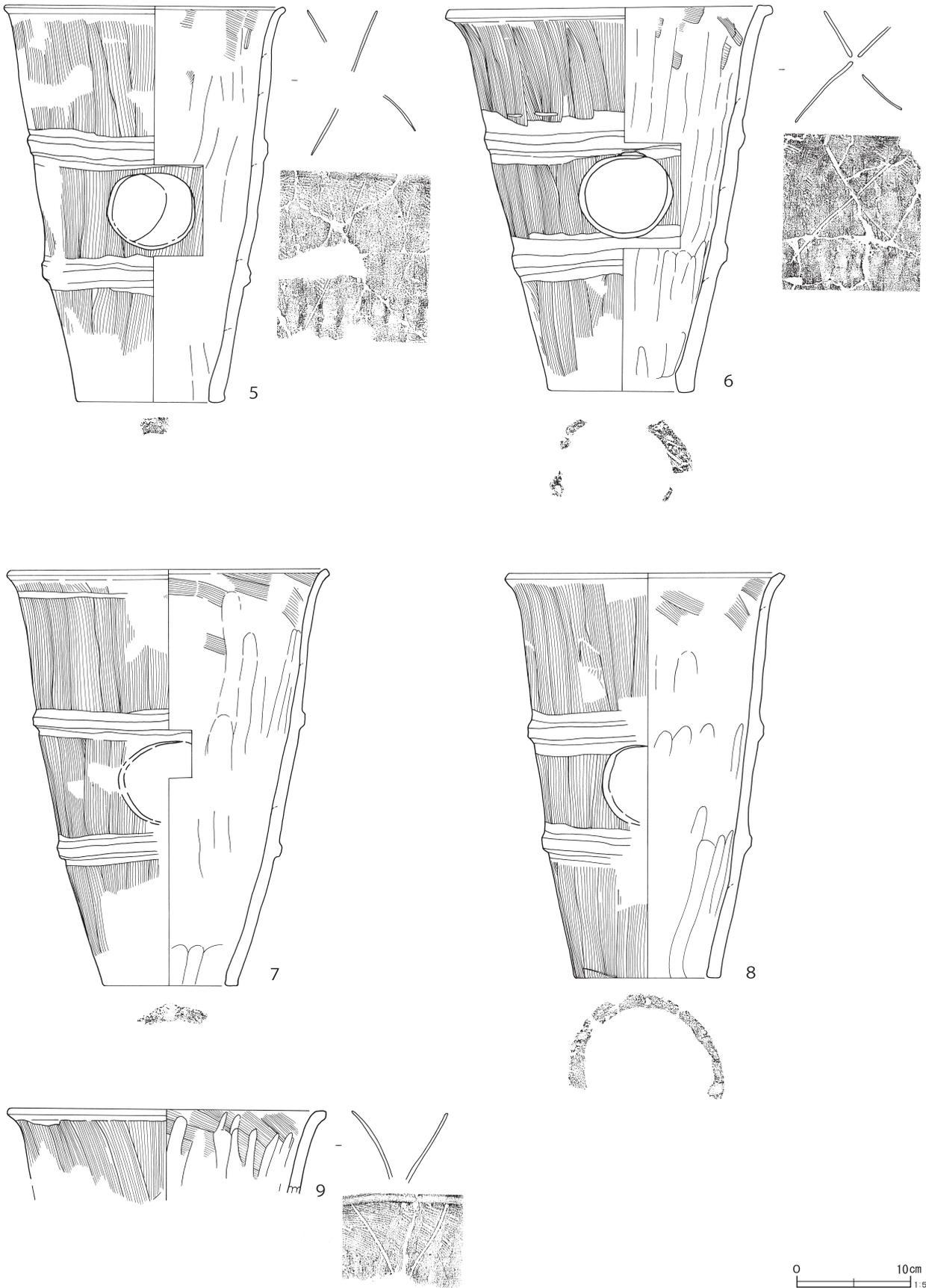
3



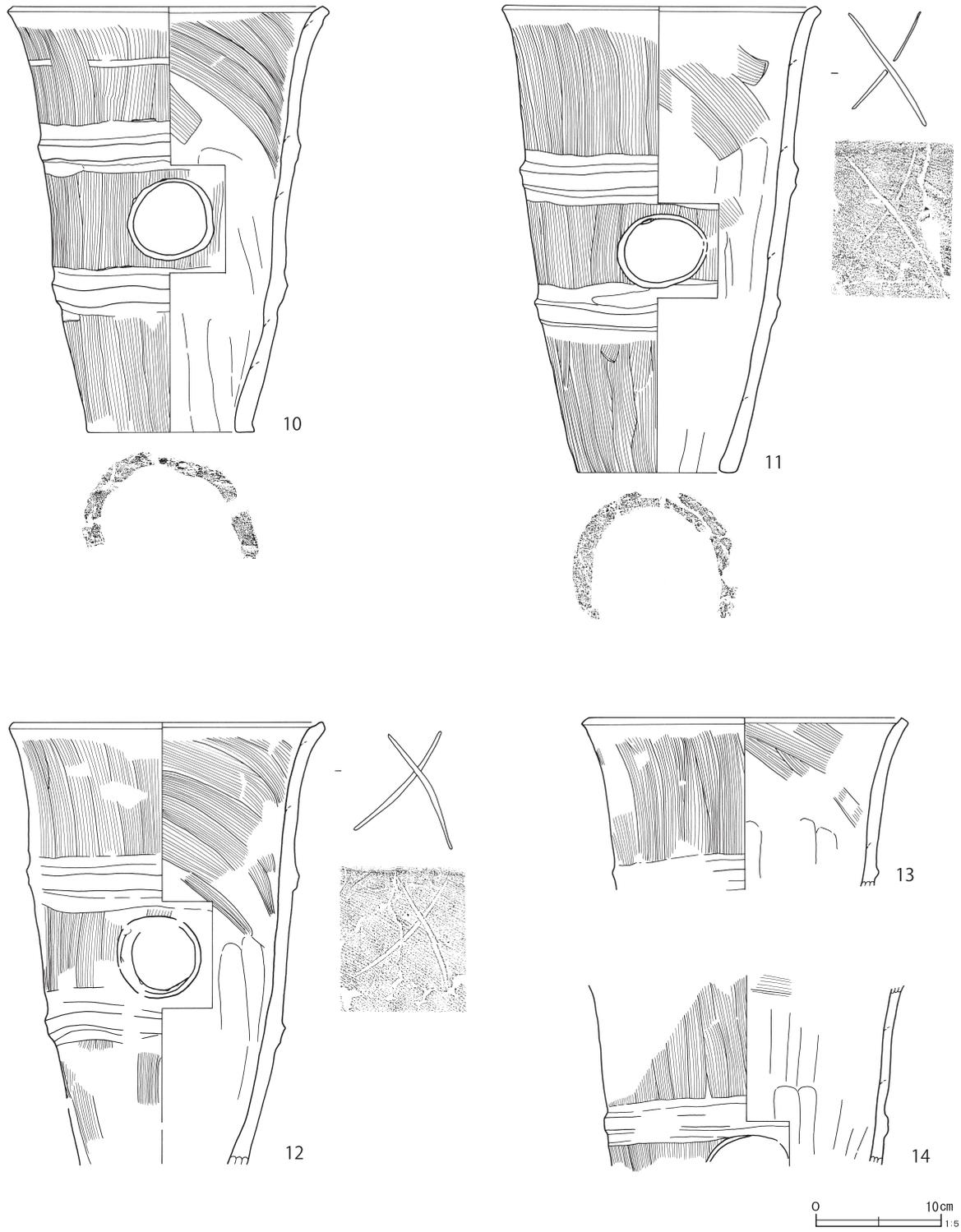
4



第10図 第1号墳出土遺物(1)



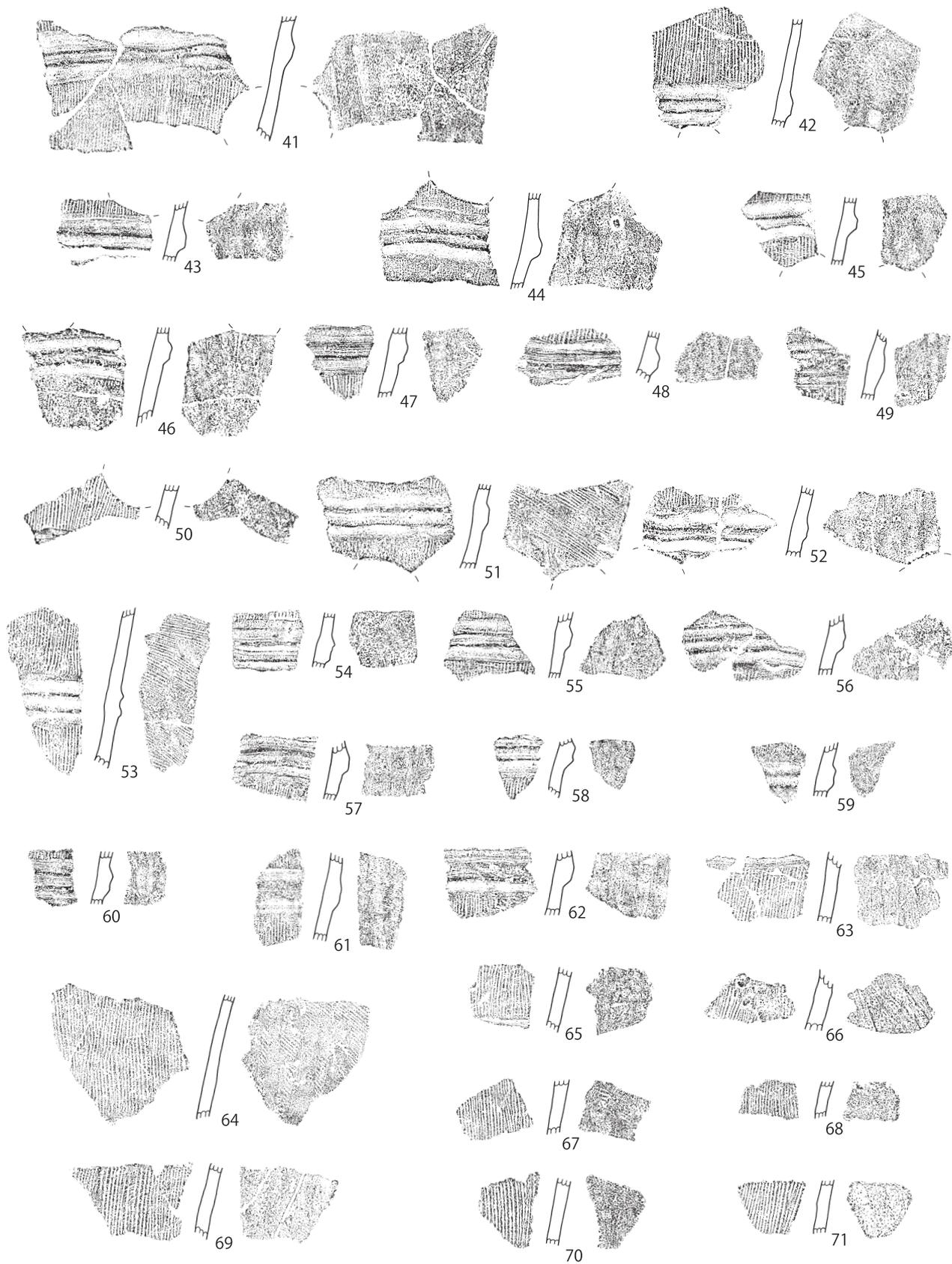
第11図 第1号墳出土遺物(2)



第12図 第1号墳出土遺物(3)

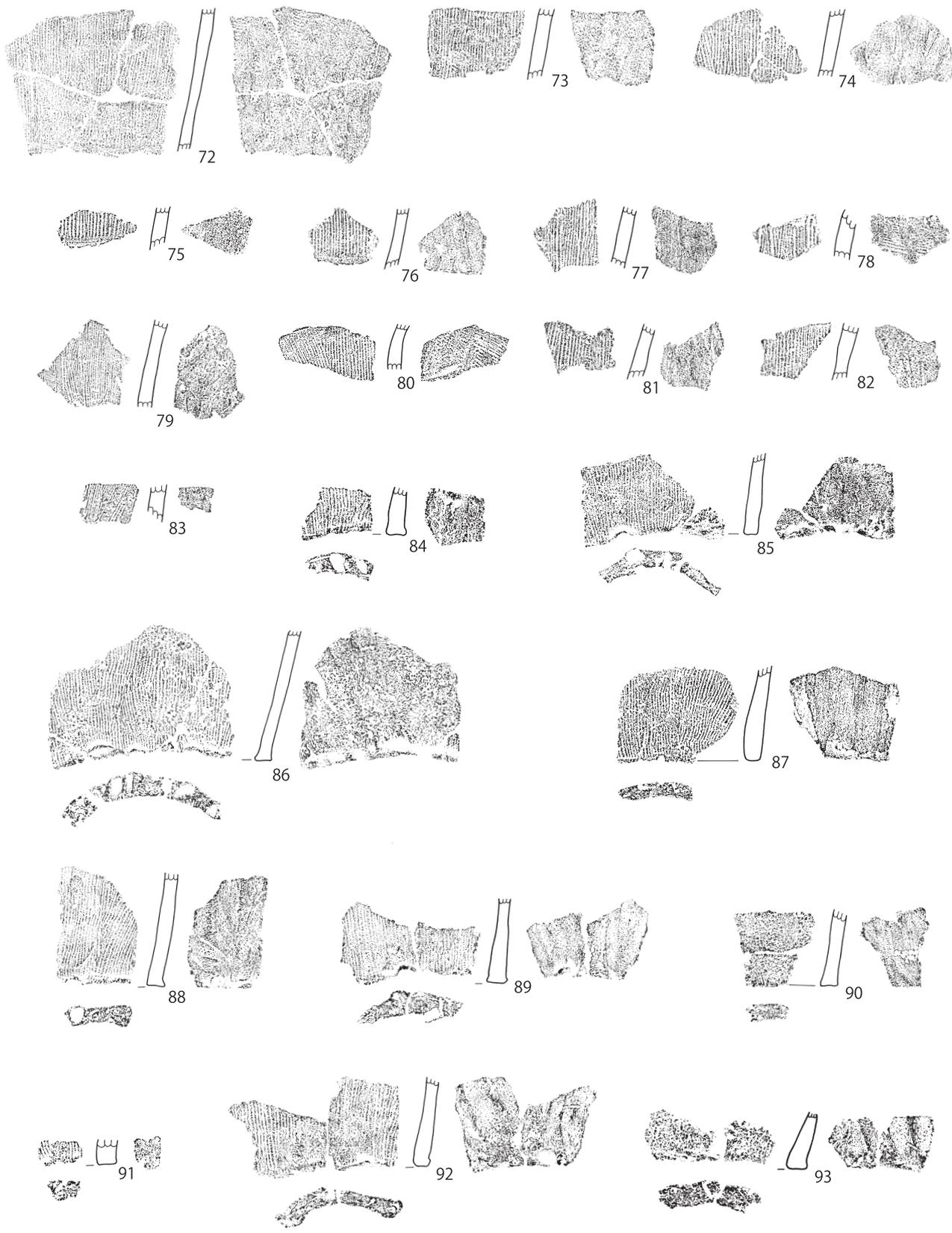


第13图 第1号墳出土遺物(4)



0 10cm
1:4

第14图 第1号墳出土遺物(5)



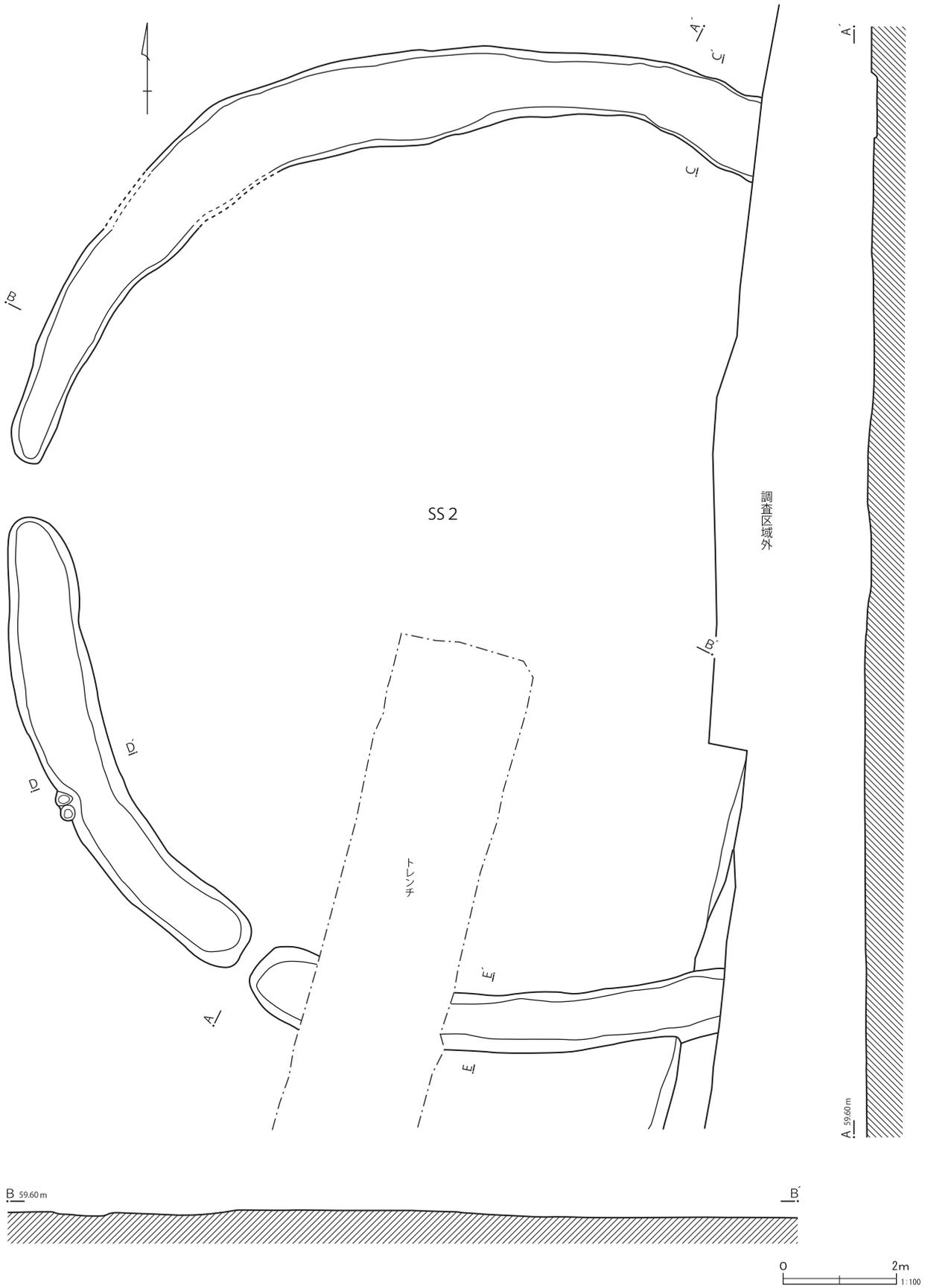
第15图 第1号墳出土遺物(6)

第2表 第1号墳出土円筒埴輪観察表(第10~14区)

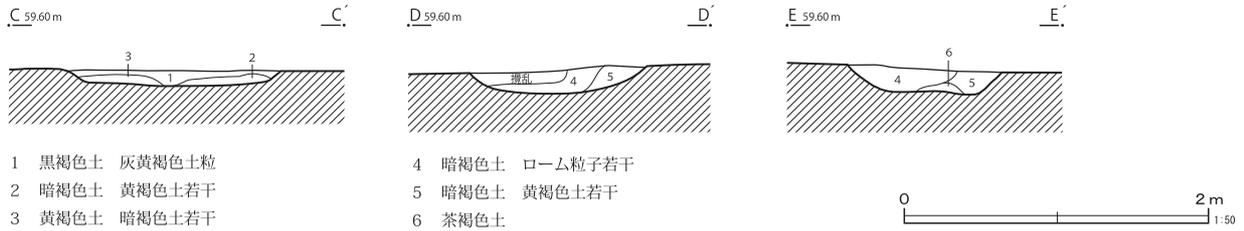
番号	器種	胎土	焼成	色調	残存	外面調整	本/2cm	内面調整	本/2cm	備考	図版
1	円筒	BIK	普通	赤	45	縦ハケ	11	斜ハケ	10	指ナデ No.1・2	21-1
2	円筒	BIK	普通	明赤褐	45	縦ハケ	10	斜ハケ	11	指ナデ No.2・21 口縁部内面「×」へラ描き	21-2
3	円筒	ABIK	良好	にぶい黄橙	80	縦ハケ	9	斜ハケ	12	指ナデ No.3・88・89 口縁部内面「×」へラ描き 底部棒状圧痕	21-3
4	円筒	AIK	普通	明赤褐	80	縦ハケ	9	斜ハケ?		指ナデ No.4 口縁部内面「×」へラ描き 底部棒状圧痕	21-4
5	円筒	BK	普通	赤	65	縦ハケ	10	斜ハケ	9	指ナデ No.5・97 口縁部内面「×」へラ描き	22-1
6	円筒	ABI	普通	明赤褐	90	縦ハケ	11	斜ハケ	11	指ナデ No.6 口縁部内面「×」へラ描き	22-2
7	円筒	BK	普通	赤	40	縦ハケ	9	斜ハケ	10	指ナデ No.7	22-3
8	円筒	ABIK	普通	橙	50	縦ハケ	11	斜ハケ	9	指ナデ No.9	22-4
9	円筒	BIK	普通	赤	25	縦ハケ	11	斜ハケ	10	指ナデ No.8・28 口縁部内面「×」へラ描き	
10	円筒	ABIK	良好	灰黄	60	縦ハケ	11	斜ハケ	11	指ナデ No.10	23-1
11	円筒	BIK	普通	にぶい赤褐	70	縦ハケ	10	斜ハケ	8	指ナデ No.11 基部R接合 口縁部内面「×」へラ描き	23-2
12	円筒	AK	普通	灰黄	80	縦ハケ	11	斜ハケ	9	指ナデ No.13・15・16 口縁部内面「×」へラ描き	23-3
13	円筒	ABIK	普通	にぶい赤褐	10	縦ハケ	11	斜ハケ	11	指ナデ No.12	23-4
14	円筒	ABIK	普通	橙	30	縦ハケ	11	斜ハケ?		指ナデ No.14・17	23-5
15	円筒	ABIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	斜ハケ	10	指ナデ No.1 内面「/」へラ描き	24-1
16	円筒	BIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	斜ハケ	11	指ナデ No.7	24-1
17	円筒	ABIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	斜ハケ	10	No.1 内面「/」へラ描き	24-1
18	円筒	BIK	良好	にぶい赤褐	破片	不明		斜ハケ	9	No.9 須恵質	24-1
19	円筒	BFI	普通	にぶい赤褐	破片	縦ハケ	10	斜ハケ	10	No.12	24-1
20	円筒	IK	普通	にぶい赤褐	破片	縦ハケ	11	斜ハケ	9	No.16・18	24-1
21	円筒	BI	良好	にぶい赤褐	破片	縦ハケ	10	斜ハケ	10	No.18	24-1
22	円筒	ABEI	良好	にぶい赤褐	破片	縦ハケ	10	斜ハケ	10	指ナデ No.18	24-1
23	円筒	IK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	ナデ		No.45	24-1
24	円筒	BI	良好	赤褐	破片	縦ハケ	9	斜ハケ	8	No.60・63 へラ描き	24-1
25	円筒	BI	良好	赤褐	破片	縦ハケ	9	斜ハケ	9	ナデ No.76	24-1
26	円筒	ABGIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ			24-2
27	円筒	BIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	ナデ		No.5	24-2
28	円筒	ABI	普通	暗赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		No.84 透孔あり	24-2
29	円筒	ABIK	普通	明赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.9	24-2
30	円筒	AIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		No.9	24-2
31	円筒	BI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.9	24-2
32	円筒	AI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.9	24-2
33	円筒	BIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.9	24-2
34	円筒	IK	普通	赤褐	破片	不明		指ナデ		No.16	24-2
35	円筒	BI	良好	赤褐	破片	縦ハケ	11	指ナデ		No.18 透孔あり	24-2
36	円筒	BIK	普通	暗赤褐	破片	縦ハケ	11	斜ハケ	10	指ナデ No.18 透孔あり	24-2
37	円筒	BIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		No.18	24-2
38	円筒	BI	良好	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		No.21	24-2
39	円筒	ABIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	11	ナデ		No.46 透孔あり	24-2
40	円筒	ABI	普通	明赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.51 透孔あり	24-2
41	円筒	FIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		No.52・53・2区 透孔あり	24-3
42	円筒	ABI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.55 透孔あり	24-3
43	円筒	AIK	普通	にぶい赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.56 透孔あり	24-3
44	円筒	BI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	8	指ナデ		No.68 透孔あり	24-3
45	円筒	ABIK	良好	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.7 透孔あり	24-3

第3表 第1号出土埴圴筒埴輪観察表 (第14~15区)

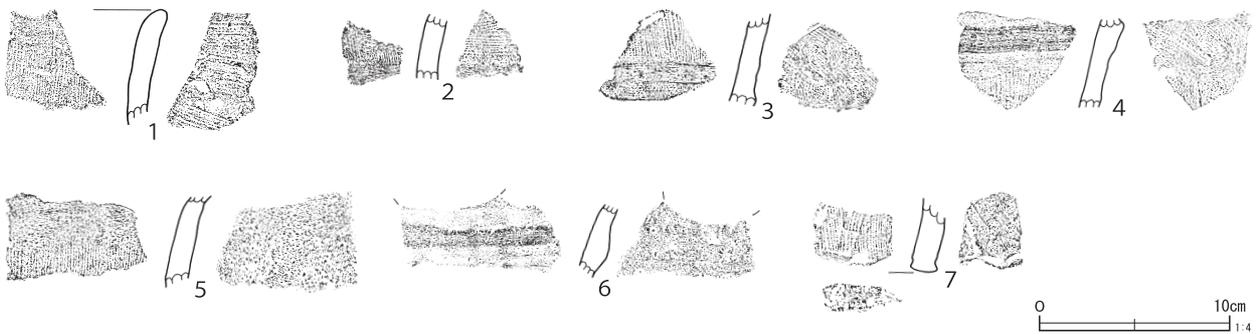
番号	器種	胎土	焼成	色調	残存	外面調整	本/2cm	内面調整	本/2cm	備考	図版	
46	圴筒	BI	普通	暗赤褐	破片	縦ハケ	8	指ナデ		No.77 透孔あり	24-3	
47	圴筒	ABEI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.78	24-3	
48	圴筒	BI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	7	指ナデ		No.80	24-3	
49	圴筒	BGI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.83	24-3	
50	圴筒	BFI	普通	にぶい赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		2区 透孔あり	24-3	
51	圴筒	BEIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	12	斜ハケ	12	指ナデ	2区 透孔あり	24-3
52	圴筒	BIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		2区 透孔あり	24-3	
53	圴筒	ABIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	斜ハケ	10		2区	25-1
54	圴筒	BGI	普通	暗赤褐	破片	縦ハケ	9	ナデ			2区	25-1
55	圴筒	ABIK	良好	赤褐	破片	縦ハケ	8	指ナデ			2区	25-1
56	圴筒	BK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ			2区	25-1
57	圴筒	ABIK	良好	赤褐	破片	縦ハケ	11	ナデ			2区	25-1
58	圴筒	AFGI	良好	暗赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ			3区	25-1
59	圴筒	BIK	普通	明赤褐	破片	不明		ナデ			3区	25-1
60	圴筒	BIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	11	指ナデ			3区	25-1
61	圴筒	IK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ			3区	25-1
62	圴筒	ABI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ			3区	25-1
63	圴筒	I	普通	暗赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.5		25-1
64	圴筒	IK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	斜ハケ	9	指ナデ	No.7	25-1
65	圴筒	AI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		No.15		25-1
66	圴筒	IK	普通	にぶい黄橙	破片	縦ハケ	11	指ナデ		No.16		25-1
67	圴筒	I	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	斜ハケ?		指ナデ	No.18	25-1
68	圴筒	ABI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	11	指ナデ		No.45		25-1
69	圴筒	BI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	8	指ナデ		No.64	へラ描き	25-1
70	圴筒	BI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.65		25-1
71	圴筒	BI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.66		25-1
72	圴筒	BIK	普通	赤	破片	縦ハケ	10	斜ハケ?		指ナデ	No.67・72	25-2
73	圴筒	FGI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	11	指ナデ		No.71		25-2
74	圴筒	BIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		No.74		25-2
75	圴筒	BI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.78		25-2
76	圴筒	BI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		2区		25-2
77	圴筒	BIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	11	指ナデ		2区		25-2
78	圴筒	ABI	普通	赤	破片	縦ハケ	11	斜ハケ	10	指ナデ	2区	25-2
79	圴筒	BG	普通	明赤褐	破片	縦ハケ	14	指ナデ		2区		25-2
80	圴筒	B	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	斜ハケ	9	指ナデ	3区	25-2
81	圴筒	BI	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		3区		25-2
82	圴筒	BI	普通	にぶい黄橙	破片	縦ハケ	10	指ナデ		3区		25-2
83	圴筒	I	普通	黄褐	破片	縦ハケ	13	不明		3区		25-2
84	圴筒	B	良好	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.33		25-3
85	圴筒	AIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		No.21		25-3
86	圴筒	BIK	普通	暗赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		No.22・23・2区	底部棒状圧痕	25-3
87	圴筒	ABEG	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		No.9		25-3
88	圴筒	BIK	良好	赤褐	破片	縦ハケ	10	ナデ		No.42		25-3
89	圴筒	B	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	ナデ		2区		25-3
90	圴筒	BIK	普通	暗赤褐	破片	不明		不明				25-3
91	圴筒	ABI	良好	にぶい赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		2区	基部R接合	25-3
92	圴筒	BIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	9	指ナデ		3区		25-3
93	圴筒	B	普通	暗赤褐	破片	縦ハケ	8	指ナデ				25-3



第16図 第2号墳(1)



第17図 第2号墳(2)



第18図 第2号墳出土遺物

第4表 第2号墳出土円筒埴輪観察表(第18図)

番号	器種	胎土	焼成	色調	残存	外面調整	本/2cm	内面調整	本/2cm	備考	図版
1	円筒	IK	普通	橙	破片	縦ハケ	15	斜ハケ	12	C-4G	26-1
2	円筒	B IK	普通	明赤褐	破片	縦ハケ	15	斜ハケ	15	C-4G	26-1
3	円筒	B	普通	橙	破片	縦ハケ	15	斜ハケ	11	C-4G	26-1
4	円筒	BK	普通	にぶい橙	破片	縦ハケ	15	斜ハケ?		C-4G	26-1
5	円筒	BK	普通	橙	破片	縦ハケ	14	斜ハケ	14	C-4G	26-1
6	円筒	BEIK	不良	赤褐	破片	ハケ?		?		C-4G	26-1
7	円筒	IK	良好	明赤褐	破片	縦ハケ	14	指ナデ		C-4G	26-1

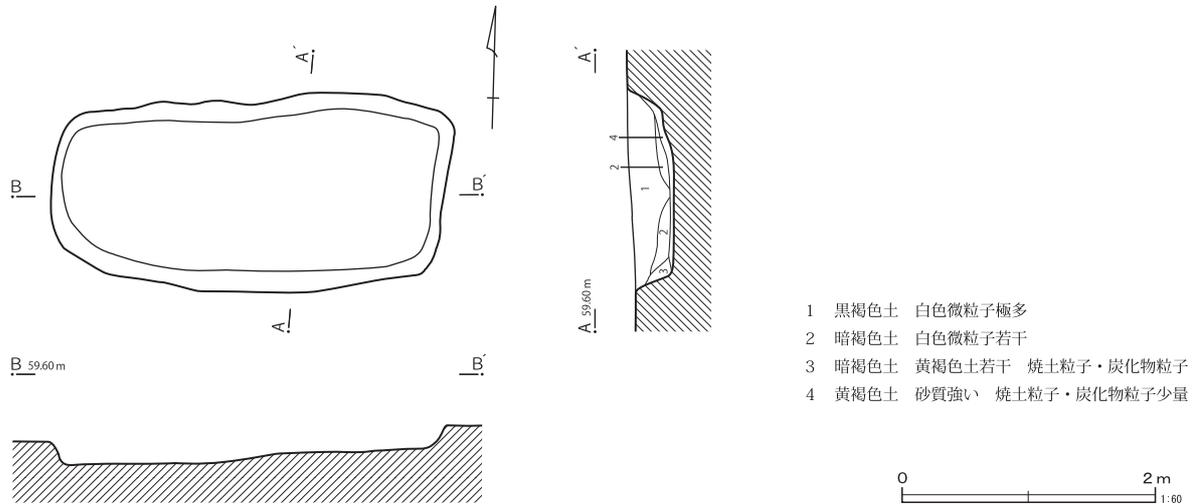
2. 土墳墓

調査当初は、土墳墓として捉えていなかったが、古墳が造られていない空間に位置し、覆土上層が第1号墳の周溝覆土と非常に近似していること、覆土下層に炭化物粒子や焼土粒子などを含む層があることなどから、土墳墓であると判断し、第1号土墳から変更した。

第1号土墳墓(第19図)

調査区の北西部、B-2グリッドに位置する。

南4mに第1号墳、東7mに第2号墳がある。隅丸長方形で長さ308cm、幅150cm、深さ44cmを測る。主軸方位は、N-89°-Eを指す。墳底の南壁際に焼土、炭化物がみられた。覆土上層に白色微粒子を多く含む黒褐色土が堆積し、円墳跡周溝の覆土と同様の覆土であることが判明した。したがって、遺物は検出されなかったが、古墳跡と同時期の所産と判断した。



第19図 第1号土壙墓

V 中・近世の遺構と遺物

中世の遺構は、第1号墳の南側に検出され、墳丘内には極めて少なく、古墳跡があった範囲は、中世段階まで集落域に取り込まれなかったことが窺える。土壌は5基確認されたが、性格は不明で

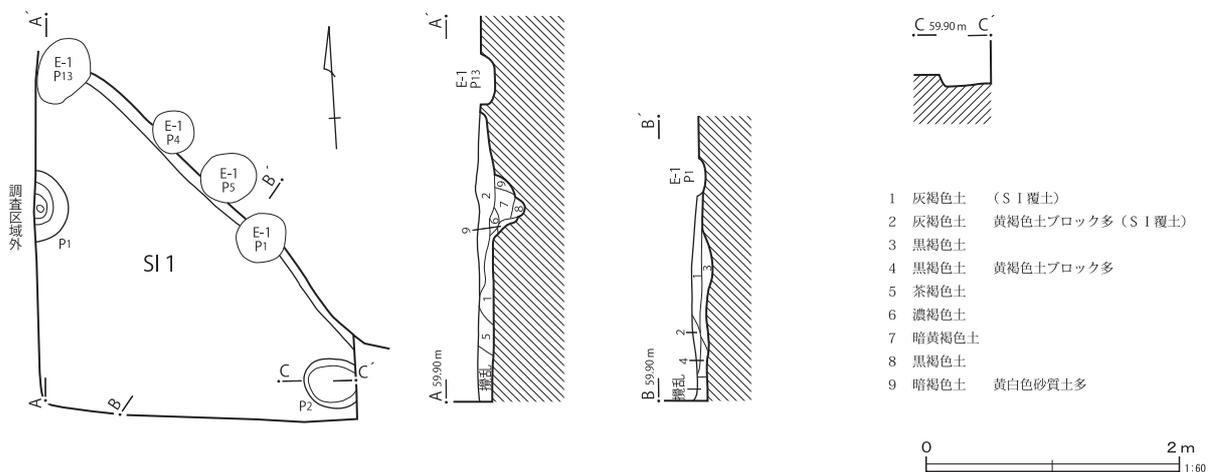
ある。ピット群は、明確な規則性が把握できなかったが、掘立柱建物跡を構成する可能性があると考えられる。遺物は、ピット覆土から陶器片が少量出土したに過ぎない。

1. 竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構（第20図）

調査区南西隅のE-1グリッド中心に位置している。北東辺を3m程確認したのみで、ほとんどが調査区域外へと広がっている。10cm程の浅い掘

り込みを持ち、床面へとただらかに傾斜し、土間状の床面は一部硬化していた。全体の規模は不明である。ピット2基が検出され、ピット1は西側1/2程が調査区域外になっており、確認できた



第20図 第1号竪穴状遺構

規模は、径56cm、深さ25cmを測る。ピット2は東側の一部が調査区域外になっており、確認できた

規模は、径40cm×38cm、深さ10cmを測る。遺物は検出されなかった。

2. 土壌

当初、第2号土壌として調査していたものは第2号墳の北側周溝の一部であったため欠番とした。

第3号土壌 (第21図)

調査区南端部のE-3グリッドに位置する。南側は調査区域外へと延び、E-3グリッドピット11と北端で重複し、切られている。平面形は、長楕円形になると推定され、確認できた長さは184cm、幅56cm、深さ9cmを測る。主軸方位は、N-16°-Eを指す。遺物は検出されなかった。

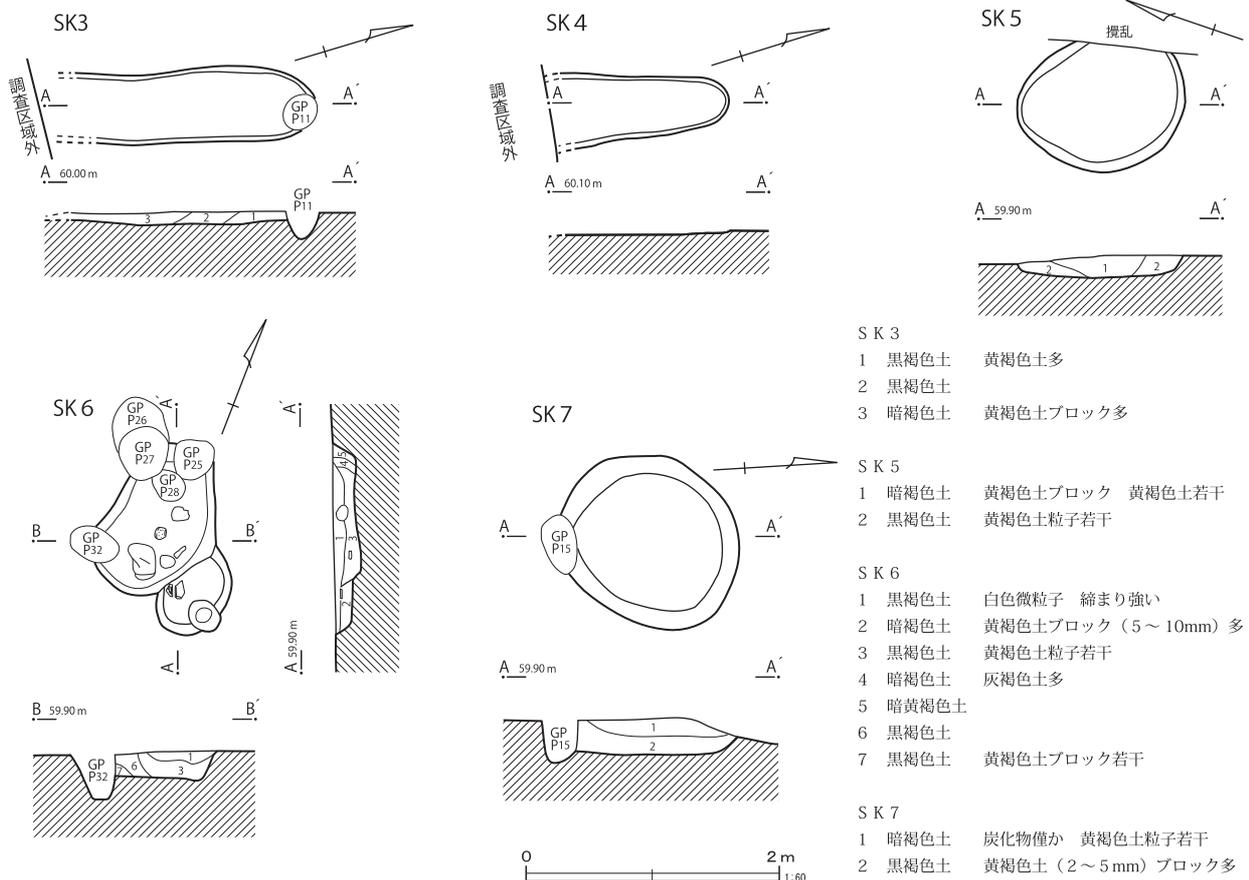
第4号土壌 (第21図)

調査区南東端部のE-3グリッドに位置する。

南側は調査域外延びている。平面形は、長楕円形になると推定され、確認できた長さは184cm、幅56cm、深さ9cmを測る。主軸方位は、N-13°-Eを指す。遺物は検出されなかった。

第5号土壌 (第21図)

調査区南端部のD-3グリッドに位置し、東側は攪乱され、西側でD-3グリッド第3号ピットと接している。また、風倒木痕を掘り込んでいる。平面形は、楕円形で、長さは130cm、確認できた幅106cm、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-13°-Wを指す。遺物は検出されなかった。



第21図 土壌

第6号土壇（第21図）

調査区南端部のE-2グリッドに位置する。E-2グリッドピット26～28・32と重複して、ピット28以外には切られている。平面形は、不正形で、確認できた長さは154cm、幅144cm、深さ20cmを測る。川原石や礫が覆土中で確認された。遺物は検出されなかった。

3. ピット

ピットは113基が確認されたが、第1号墳以南の調査区南側で大半が検出された。数基は第1号墳の周溝内の南側寄りで検出された。

明確な規則性は把握できなかったが、ピットには掘立柱建物跡を構成するものもあると考えられる。遺物はピット覆土から陶器片が少量出土した。

D-1グリッド第1号ピット（第23図）

調査区南西の調査区域際に位置する。平面形は、円形である。規模は、径34cm×32cm、深さ24cmを測る。ピット底は2か所が円形状に深くなっている。遺物は検出されなかった。

D-1グリッド第2号ピット（第23図）

調査区南西の調査区域際に位置する。平面形は、円形である。規模は、径35cm×33cm、深さ35cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-1グリッド第3号ピット（第23図）

調査区南西に位置し、ピット1・2の南東に位置する。平面形は、円形である。規模は、径34cm×32cm、深さ13cmを測る。北側がテラス状になり、南側が深い。遺物は検出されなかった。

D-1グリッド第4号ピット（第23図）

調査区南西に位置する。第1号堅穴状遺構の確認できた北東辺と重複し、堅穴状遺構を切っている。平面形は、円形である。規模は、径34cm×32cm、深さ19cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-1グリッド第5号ピット（第23図）

調査区南西に位置する。第4号ピットの南東にあり、第1号堅穴状遺構の確認できた北東辺と重

第7号土壇（第21図）

調査区南端部のD-2グリッドに位置する。南側でD-2グリッドピット15と重複し、切られている。平面形は、円形で径は125cm×143cm、深さ29cmを測る。主軸方位は、N-20°-Eを指す。遺物は検出されなかった。

複し、堅穴状遺構を切っている。平面形は、円形である。規模は、径45cm×38cm、深さ18cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-1グリッド第6号ピット（第23図）

調査区南西に位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸50cm、短軸35cm、深さ37cmを測る。ピット底面は北側がテラス状になっている。遺物は、覆土から素焼き土器の細片が出土した。

D-1グリッド第7号ピット（第23図）

調査区南西に位置する。平面形は、円形である。規模は、径44cm×40cm、深さ26cmを測る。遺物は、覆土から素焼の土器の細片が出土した。

D-1グリッド第8号ピット（第23図）

調査区南西に位置する。北東側で第9号ピットと重複し、先後関係は不明である。平面形は、円形である。規模は、径30cm×20cm、深さ30cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-1グリッド第9号ピット（第23図）

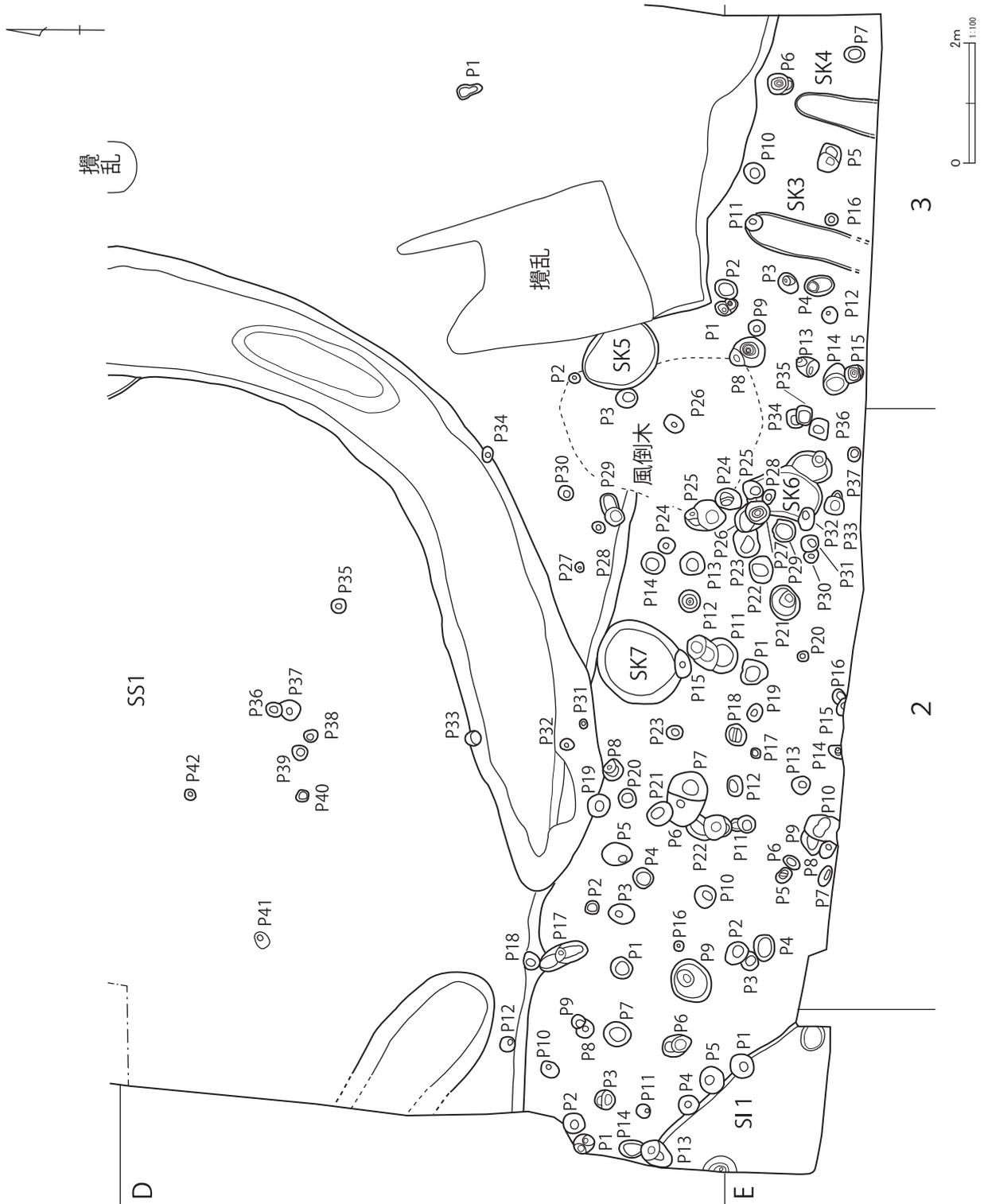
調査区南西に位置する。南西側で第8号ピットと重複し、先後関係は不明である。平面形は、円形である。規模は、径22cm×22cm、深さ9cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-1グリッド第10号ピット（第23図）

調査区南西の北寄りに位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸32cm、短軸25cm、深さ25cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-1グリッド第11号ピット（第23図）

調査区南西に位置する。平面形は、円形である。



第22図 ピット分布図

規模は、径24cm×22cm、深さ19cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-1 グリッド第12号ピット (第23図)

調査区南西の第1号墳周溝の南側に隣接して

位置する。平面形は、円形である。規模は、径25cm×24cm、深さ25cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-1 グリッド第13号ピット (第23図)

調査区南西の調査区域際に位置する。北側で第14号ピットと南側で第1号堅穴状遺構と重複し、両者とも先後関係は不明である。平面形は、楕円形である。規模は、長軸56cm、短軸33cm、深さ46cmを測る。ピットは南西側がテラス状になっている。遺物は検出されなかった。

D-1 グリッド第14号ピット (第23図)

調査区南西の調査区域際に位置する。南側で第14号ピットと重複し、先後関係は不明である。平面形は、楕円形である。規模は、確認できた長軸35cm、短軸25cm、深さ14cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第1号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。平面形は、円形である。規模は、径37cm×32cm、深さ12cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第2号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。平面形は、隅丸方形である。規模は、24cm×22cm、深さ12cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第3号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸42cm、短軸32cm、深さ45cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第4号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。平面形は、円形である。規模は、径34cm×32cm、深さ14cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第5号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。平面形は楕円形である。規模は、長軸50cm、短軸36cm、深さ76cmを測り、ピット群の中で最も深いものである。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第6号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。東側で第7号ピット、北側で第21号ピット、南西側で第22号ピットと重

複し、第7・21号ピットに切られ、第22号ピットを切っている。平面形は、不明である。確認できた規模は、60cm×44cm、深さ31cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第7号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。西側で第6号ピットと重複し、切っている。平面形は、楕円形である。規模は、長軸60cm、短軸40cm、深さ36cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第8号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。第1号墳の周溝外周に接している。平面形は、円形である。規模は、径34cm×32cm、深さ37cmを測る。断面で柱痕の可能性のある痕跡が確認できた。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第9号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。平面形は、円形である。規模は、径76cm×60cm、深さ26cmを測る。ピット底外周はテラス状となり、中央のみ円形状に深くなっている。遺物は、覆土より素焼の土器の細片が出土した。

D-2 グリッド第10号ピット (第23図)

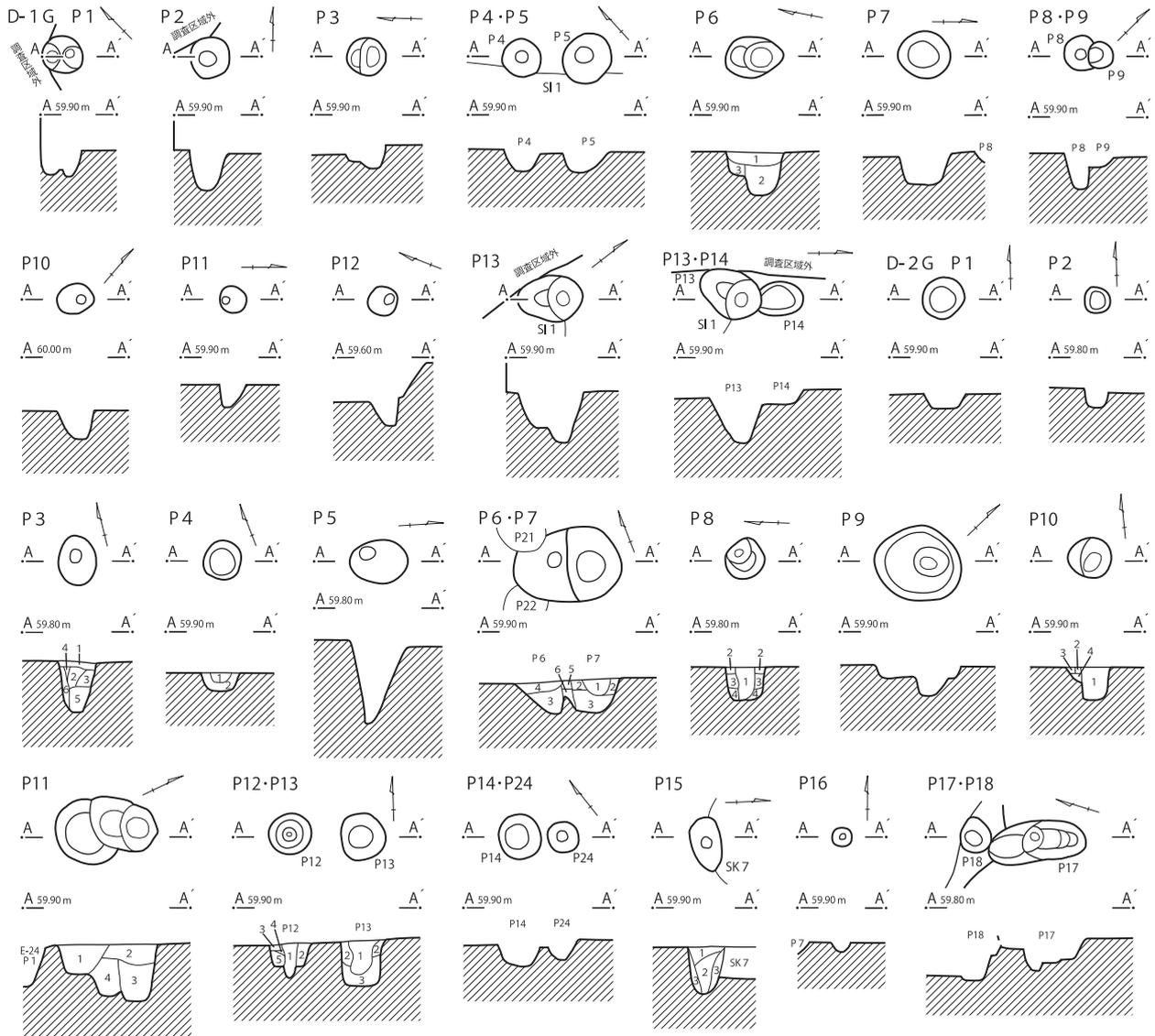
調査区南西に位置する。平面形は、円形である。規模は、径36cm×34cm、深さ28cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第11号ピット (第23図)

調査区南の中央に位置する。北西側で第15号ピットと接している。平面形は、ピットが3基連結しており、南端が最も新しく、北端、中央の順に古くなる。深さは南端のものが27cm、北端のものが50cm、中央のものが47cmを測る。遺物は覆土中より埴輪細片が出土した。

D-2 グリッド第12号ピット (第23図)

調査区南部の中央に位置する。第13号ピットが東に隣接する。平面形は、円形である。規模は、径36cm、深さ28cmを測る。ピット底は中央が円形状に深くなっており、断面で柱痕が確認できた。



D-1 グリッドピット 6

- 1 黒褐色土 土器小片 黄褐色土若干
- 2 暗褐色土 黄褐色土 炭化物僅か
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子若干

D-2 グリッドピット 3

- 1 黒褐色土 白色微粒子若干
- 2 暗褐色土 黄褐色土多
- 3 暗褐色土 黄褐色土若干
- 4 暗褐色土 砂質
- 5 濃褐色土
- 6 暗黄褐色土

D-2 グリッドピット 4

- 1 黒褐色土 白色粒子 土器小片僅か
- 2 暗褐色土 黄褐色土多

D-2 グリッドピット 6・ピット 7

- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒多
- 3 暗褐色土 黄褐色土僅か
- 4 黒褐色土 黄褐色土粒子若干
- 5 暗褐色土 黄褐色土多
- 6 暗褐色土 黄褐色土多

D-2 グリッドピット 8

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子若干 (柱根)
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒子極多
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒子多
- 4 暗黄褐色土

D-2 グリッドピット 10

- 1 黒褐色土 焼土僅か
- 2 黄褐色土 灰褐色土多
- 3 黒褐色土
- 4 茶褐色土

D-2 グリッドピット 11

- 1 暗褐色土 黄灰色土・ブロック
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子多
- 3 濃褐色土
- 4 暗褐色土 黄褐色土多

D-2 グリッドピット 12

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子僅か (柱根)
- 2 暗褐色土
- 3 黒褐色土 白色微粒子
- 4 黄褐色土
- 5 暗褐色土 黄褐色土粒若干

D-2 グリッドピット 13

- 1 黒褐色土 炭化物、焼土僅か 黄褐色土粒子多
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒子多
- 3 灰褐色土

D-2 グリッドピット 15

- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック (径5mm) 若干
- 2 黒褐色土 黄褐色土ブロック (径5mm) 黄褐色土多
- 3 黒褐色土



第23図 ピット (1)

遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第13号ピット (第23図)

調査区南部中央に位置する。第12号ピットが西に隣接する。平面形は、円形である。規模は、径40cm×38cm、深さ39cmを測る。断面から柱痕の可能性のある痕跡が確認された。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第14号ピット (第23図)

調査区南部中央に位置する。第24号ピットが北東に隣接している。平面形は、円形である。規模は、径38cm×36cm、深さ20cmを測る。遺物は覆土より素焼の土器細片が出土した。

D-2 グリッド第15号ピット (第23図)

調査区南部中央に位置する。第7号土壇と重複し、土壇を切っている。平面形は、楕円形である。規模は、長軸46cm、短軸24cm、深さ40cmを測る。遺物は覆土より素焼の土器細片が出土した。

D-2 グリッド第16号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。平面形は、円形である。規模は、径16cm、深さ9cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第17号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。北側で第18号ピットと接する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸84cm、短軸34cm、深さ27cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第18号ピット (第23図)

調査区南西に位置する。南側で第17号ピットと接する。平面形は、円形である。規模は、径30cm×24cm、深さ27cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第19号ピット (第24図)

調査区南西に位置する。第1号墳の周溝外周と重複する。平面形は、円形である。規模は、径40cm×36cm、深さ19cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第20号ピット (第24図)

調査区南西に位置する。平面形は、円形である。規模は、径31cm×30cm、深さ18cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第21号ピット (第24図)

調査区南西に位置する。第6号ピットと重複し、切っている。平面形は、円形である。規模は、径44cm×36cm、深さ18cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第22号ピット (第24図)

調査区南西に位置する。北側で第6号ピット、南側で第11号ピットと重複しているが、先後関係は不明である。規模は、確認できた長さ75cm、幅36cm、深さ28cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第23号ピット (第24図)

調査区南の中央部に位置する。平面形は、円形である。規模は、径28cm×22cm、深さ10cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第24号ピット (第23図)

調査区南の中央部に位置する。平面形は、円形である。規模は、径27cm×26cm、深さ17cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第25号ピット (第24図)

調査区南の中央部に位置する。風倒木痕2を掘り込んでいる。平面形は、不整形である。規模は、長軸67cm、短軸35cm、深さ29cmを測る。ピット底の北側はテラス状になっている。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第26号ピット (第24図)

調査区南の中央に位置する。風倒木痕2を掘り込んでいる。平面形は、円形である。規模は、径32cm×28cm、深さ18cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第27号ピット (第24図)

調査区南の中央に位置する。平面形は、円形である。規模は、径16cm×14cm、深さ6cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第28号ピット (第24図)

調査区南の中央に位置する。平面形は、円形である。規模は、径22cm×18cm、深さ10cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第29号ピット (第24図)

調査区南の中央に位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸56cm、短軸28cm、深さ27cmを測る。ピット底は東側がテラス状になっている。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第30号ピット (第24図)

調査区南の中央に位置する。平面形は、円形である。規模は、径26cm×23cm、深さ21cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第31号ピット (第24図)

調査区南の中央に位置する。第1号墳の南側周溝の外周壁面を掘り込んでいる。平面形は、円形である。規模は、径16cm×13cm、深さ7cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第32号ピット (第24図)

調査区南の中央に位置する。第31号ピットと同様に、第1号墳の南側周溝の外周壁面を掘り込んでいる。平面形は、円形である。規模は、径23cm×18cm、深さ10cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第33号ピット (第24図)

調査区南部中央に位置する。平面形は、円形と推定される。第1号墳の南側周溝の内周と墳丘部の一部を掘り込んである。規模は、径26cm×24cm、深さ18cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第34号ピット (第24図)

調査区南の中央に位置する。第1号墳の周溝外周部を掘り込んでいる。平面形は楕円形である。規模は、長軸26cm、短軸16cm、深さ14cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第35号ピット (第24図)

調査区南の第1号墳の墳丘内を掘り込んでいる。平面形は、円形である。規模は、径24cm×23cm、深さ26cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第36号ピット (第24図)

調査区南の第1号墳の墳丘内を掘り込んでいる。南側で第37号ピット重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、円形である。規模は、径26cm×24cm、深さ7cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第37号ピット (第24図)

調査区南の第1号墳の墳丘内を掘り込んでいる。北側で第36号ピット重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、円形である。規模は、径36cm×30cm、深さ18cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第38号ピット (第24図)

調査区南の第1号墳の墳丘内を掘り込んでいる。平面形は、円形である。規模は、径23cm×20cm、深さ12cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第39号ピット (第24図)

調査区南の第1号墳の墳丘内を掘り込んでいる。平面形は、円形である。規模は、径26cm×24cm、深さ9cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第40号ピット (第24図)

調査区南の第1号墳の墳丘内を掘り込んでいる。平面形は、隅丸方形である。規模は、20cm×18cm、深さ15cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第41号ピット (第24図)

調査区南の第1号墳の墳丘内西寄りを掘り込んでいる。平面形は、円形である。規模は、径28cm×20cm、深さ21cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-2 グリッド第42号ピット (第24図)

調査区南の第1号墳の墳丘内を掘り込んでいる。平面形は、円形である。規模は、径19cm×16cm、深さ9cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-3 グリッド第1号ピット (第24図)

調査区南の東寄りに位置する。平面形は、瓢形である。規模は、長さ42cm、幅15cm、深さ7cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-3 グリッド第2号ピット (第24図)

調査区南の東寄りに位置する。風倒木痕2を掘り込んでいる。平面形は、円形である。規模は、径18cm×16cm、深さ20cmを測る。遺物は検出されなかった。

D-3 グリッド第3号ピット (第24図)

調査区南の東寄りに位置する。風倒木痕2を掘り込んでいる。第5号土壇と東側で接している。平面形は、円形である。規模は、径35cm×30cm、深さ40cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-1 グリッド第1号ピット (第24図)

調査区南西隅に位置する。第1号堅穴状遺構の北東辺と重複している。平面形は、円形である。規模は、径40cm×38cm、深さ26cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第1号ピット (第24図)

調査区南の中央に位置する。平面形は、不整形である。規模は、45cm×34cm、深さ26cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第2号ピット (第24図)

調査区南の西部に位置する。第3号ピットと重複し、切っている。平面形は、楕円形である。規模は、長軸40cm、短軸34cm、深さ35cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第3号ピット (第24図)

調査区南の西部に位置する。第2号ピットと重複して切られ、南東側で第4号ピットと接している。平面形は、円形である。規模は、径30cm×28cm、深さ14cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第4号ピット (第24図)

調査区南の東寄りに位置する。平面形は、円形である。規模は、長軸44cm×短軸34cm、深さ16cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第5号ピット (第24図)

調査区南の西部に位置する。南東側で第6号ピットと接している。平面形は、楕円形である。規模は、長軸28cm、短軸20cm、深さ22cmを測る。遺物は検出されなかった。

物は検出されなかった。

E-2 グリッド第6号ピット (第24図)

調査区南の西部に位置する。北西側で第5号ピットと接している。平面形は、楕円形である。規模は、長軸30cm、短軸18cm、深さ9cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第7号ピット (第24図)

調査区南端の西部に位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸36cm、短軸18cm、深さ14cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第8号ピット (第24図)

調査区南端の西部に位置する。北東側で第9・10号ピットと接している。平面形は、楕円形である。規模は、長軸30cm、短軸23cm、深さ20cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第9号ピット (第24図)

調査区南端の西部に位置する。第10号ピットと重複し、南側で第8号ピットと接している。平面形は、楕円形と想定される。規模は、長軸40cm、確認された短軸20cm、深さ39cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第10号ピット (第24図)

調査区南端の西寄りに位置する。西側で第8号ピットと接し、第9号ピットと重複している。南側は調査区域外となっている。平面形は、楕円形と推定される。規模は、確認できた長軸52cm、短軸42cm、深さ57cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第11号ピット (第24図)

調査区南の西寄りに位置する。北側でD-2グリッド第22号ピットと重複している。平面形は、瓢形である。規模は、確認できた長軸38cm、幅20cm、深さ11cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第12号ピット (第24図)

調査区南の西寄りに位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸34cm、短軸25cm、深さ15cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第13号ピット (第24図)

調査区南の西寄りに位置する。平面形は、円形である。規模は、径30cm×24cm、深さ23cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第14号ピット (第24図)

調査区南端の西寄りに位置する。南側は調査区域外となっている。平面形は、楕円形と推定される。規模は、確認できた長軸20cm、短軸20cm、深さ18cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第15号ピット (第24図)

調査区南端のやや西寄りに位置する。東側で第16号ピットと重複している。南は調査区域外となっている。平面形は、円形と推定される。確認できた規模は、径30cm、深さ18cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第16号ピット (第24図)

調査区南のやや西寄りに位置する。西側で第15号ピットと重複する。平面形は、円形と推定される。確認できた規模は、径22cm、深さ9cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第17号ピット (第24図)

調査区南のやや西寄りに位置する。平面形は、円形である。規模は、径16cm×16cm、深さ12cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第18号ピット (第24図)

調査区南のやや西寄りに位置する。平面形は、円形である。規模は、径38cm×32cm、深さ34cmを測る。ピット底は段差があり北側が深くなっている。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第19号ピット (第24図)

調査区南のやや西寄りに位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸30cm、短軸23cm、深さ20cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第20号ピット (第24図)

調査区南のほぼ中央に位置する。平面形は、円形である。規模は、径18cm×16cm、深さ25cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第21号ピット (第24図)

調査区南のほぼ中央に位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸57cm、短軸44cm、深さ30cmを測る。ピット底は南壁際が円形状に深くなっている。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第22号ピット (第24図)

調査区南のほぼ中央に位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸44cm、短軸38cm、深さ28cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第23号ピット (第24図)

調査区南のほぼ中央に位置する。東側で第26号ピットと重複している。平面形は、楕円形と推定される。規模は、確認できた長軸42cm、短軸38cm、深さ47cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第24号ピット (第25図)

調査区南の中央やや東寄りに位置する。風倒木痕2を掘り込んでいる。平面形は、楕円形である。規模は、長軸43cm、短軸34cm、深さ52cmを測る。ピット底は西側が深くなっている。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第25号ピット (第25図)

調査区南の中央やや東寄りに位置する。ピットが密集しているところにある。第6号土壌と重複し、南西側で第28号ピットと接している。平面形は、楕円形である。規模は、長軸35cm、短軸23cm、深さ26cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第26号ピット (第25図)

調査区南の中央やや東寄りに位置する。ピットが密集しているところにある。南側で第27号ピットと重複している。平面形は、楕円形と推定される。規模は、確認できた長軸24cm、短軸44cm、深さ15cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第27号ピット (第25図)

調査区南の中央やや東寄りに位置する。ピットが密集しているところにある。第6号土壌、北側で第26号ピットと重複している。平面形は、円形である。規模は、径40cm×38cm、深さ49cmを測る。

ピット底は中央部が低くなっている。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第28号ピット (第25図)

調査区南の中央やや東寄りに位置する。ピットが密集しているところにある。第6号土壙と重複し、北東側で第25号ピットと接している。平面形は、楕円形である。規模は、長軸26cm、短軸18cm、深さ7cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第29号ピット (第25図)

調査区南の中央やや東寄りに位置する。ピットが密集しているところにある。第6号土壙の西側にある。平面形は、円形である。規模は、径37cm×32cm、深さ23cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第30号ピット (第25図)

調査区南の中央やや東寄りに位置する。ピットが密集しているところにある。東側で第31号ピットと重複している。平面形は、円形と推定される。規模は、径23cm×20cm、深さ16cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第31号ピット (第25図)

調査区南の中央やや東寄りに位置する。ピットが密集しているところにある。西側で第30号ピットと重複している。平面形は、円形である。規模は、径28cm×26cm、深さ15cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第32号ピット (第25図)

調査区南の中央やや東寄りに位置する。ピットが密集しているところにある。第6号土壙の南西辺と重複している。平面形は、楕円形である。規模は、長軸37cm、短軸22cm、深さ37cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第33号ピット (第25図)

調査区南の中央のやや東寄りに位置する。平面形は、隅丸方形で東側の一部が突出する。規模は、長さ40cm、幅16cm、深さ20cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第34号ピット (第25図)

調査区南の中央東寄りに位置する。南側で第35号ピットと重複している。平面形は、隅丸方形である。規模は、長さ31cm、幅28cm、深さ9cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第35号ピット (第25図)

調査区南の中央東寄りに位置する。北側で第34号ピットと重複している。平面形は、隅丸方形である。規模は、長さ32cm、幅24cm、深さ18cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第36号ピット (第25図)

調査区南の中央東寄りに位置する。北側で第35号ピットと重複している。平面形は、隅丸方形である。規模は、長さ32cm、幅30cm、深さ46cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-2 グリッド第37号ピット (第25図)

調査区南端の中央東寄りに位置する。平面形は、円形である。規模は、径24cm×20cm、深さ29cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第1号ピット (第25図)

調査区南の東寄りに位置する。東側の一部が第2号ピットと重複している。平面形は、歪んだ瓢形である。規模は、長さ38cm、幅22cm、深さ23cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第2号ピット (第25図)

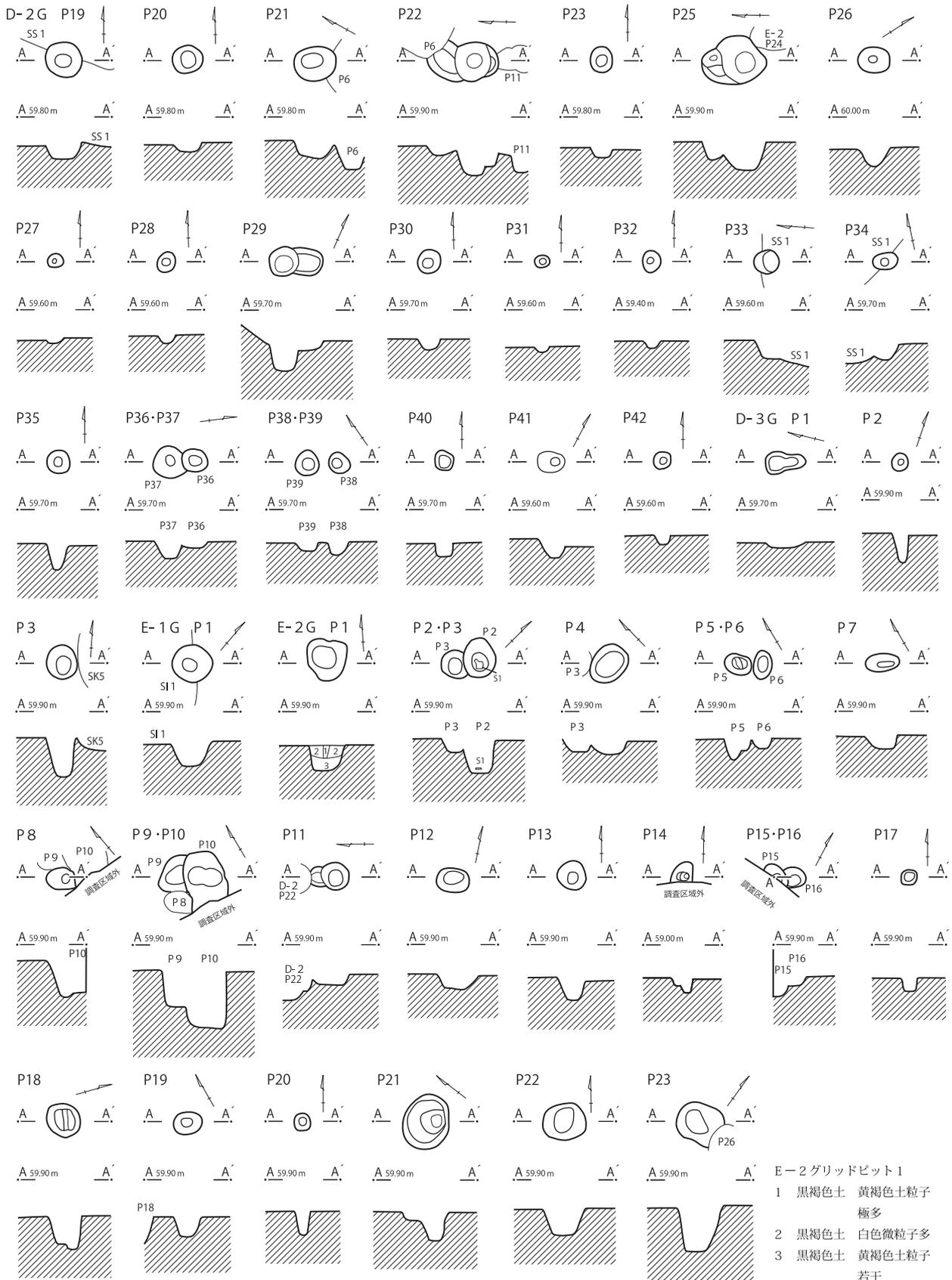
調査区南の東寄りに位置する。西側が第1号ピットと重複している。平面形は、楕円形である。規模は、長軸36cm、短軸29cm、深さ15cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第3号ピット (第25図)

調査区南の東寄りに位置する。平面形は、楕円形である。規模は、径36cm×28cm、深さ27cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第4号ピット (第25図)

調査区南の東寄りに位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸49cm、短軸32cm、深さ17cmを測る。ピット底は、北側が円形状に深くなっ



第24図 ピット (2)

ている。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第5号ピット (第25図)

調査区南東隅寄りに位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸46cm、短軸32cm、深さ44cmを測る。ピット底は東側がテラス状になっている。遺物は覆土中から陶器片が出土した。図示できないが、施釉からみて近世のものである。

E-3 グリッド第6号ピット (第25図)

調査区南東隅寄りに位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸42cm、短軸27cm、深さ40cmを測る。ピット底は円形状に深くなっている。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第7号ピット (第25図)

調査区南東隅に位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸32cm、短軸25cm、深さ40cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第8号ピット (第25図)

調査区南の東寄りに位置する。風倒木痕2を掘り込んでいる。東側は第9号ピットと接している。平面形は、楕円形である。規模は、長軸60cm、短軸34cm、深さ57cmを測る。北東側がテラス状になり、ピット底は円形状に中央が深くなっている。断面からも柱痕が確認された。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第9号ピット (第25図)

調査区南の東寄りに位置する。西側で第8号ピットと接している。平面形は、円形である。規模は、径27cm×26cm、深さ21cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第10号ピット (第25図)

調査区南東隅寄りに位置する。平面形は、円形

である。規模は、径34cm×30cm、深さ14cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第11号ピット (第25図)

調査区南の東寄りに位置する。第3号土壇の北端と重複している。平面形は、円形である。規模は、径27cm、深さ31cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第12号ピット (第25図)

調査区南の東寄りに位置する。平面形は、円形である。規模は、径27cm×26cm、深さ14cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第13号ピット (第25図)

調査区南の東寄りに位置する。平面形は、楕円形である。規模は、長軸38cm、短軸28cm、深さ44cmを測る。ピット底は2方向に深くなっている。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第14号ピット (第25図)

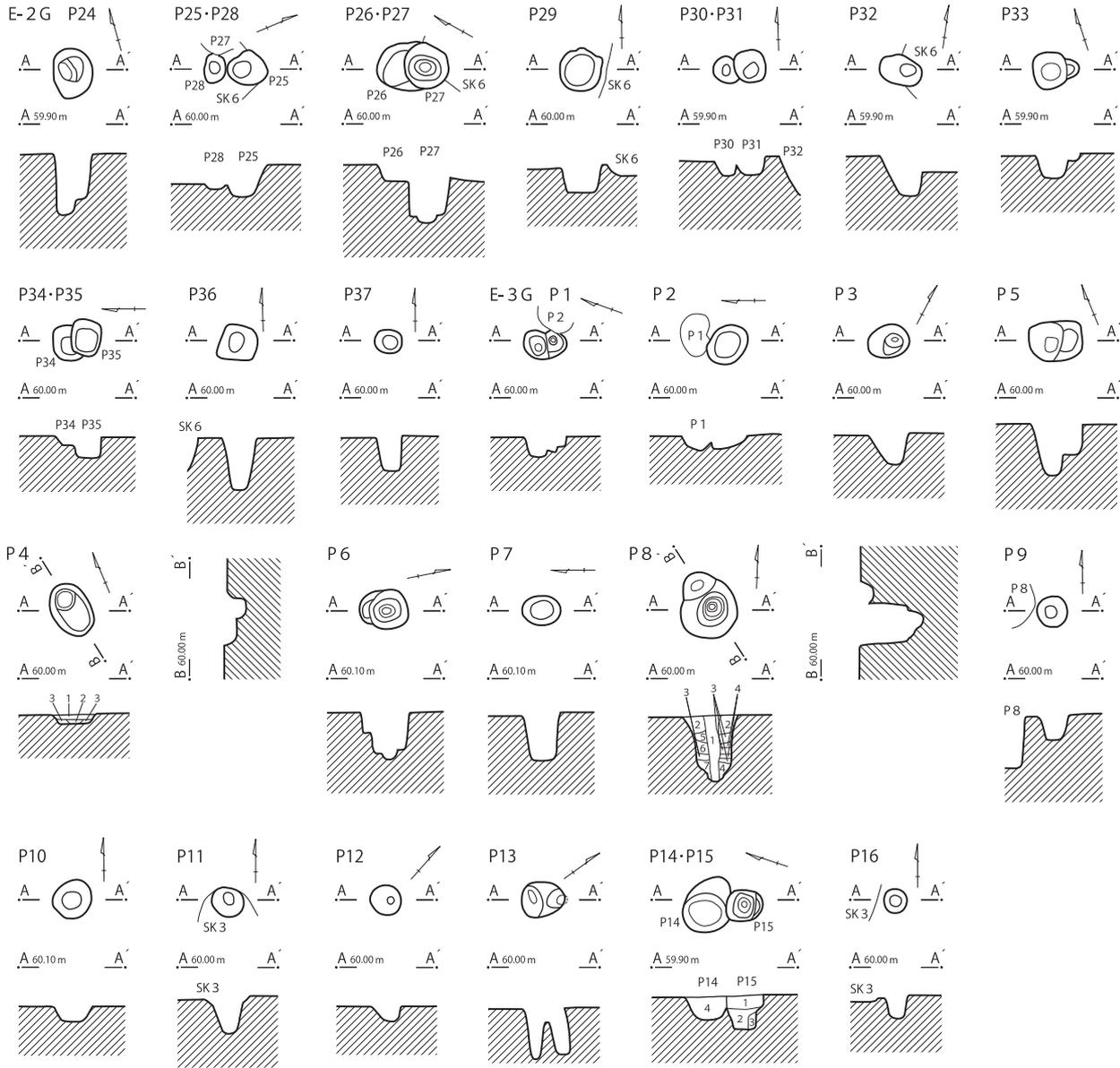
調査区南端の東寄りに位置する。南側で第15号ピットと重複して切られている。平面形は、楕円形である。規模は、長軸50cm、短軸41cm、深さ21cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第15号ピット (第25図)

調査区南端の東寄りに位置する。北側で第14号ピットと重複して切っている。平面形は、隅丸方形である。規模は、長さ31cm、幅24cm、深さ38cmを測る。遺物は検出されなかった。

E-3 グリッド第16号ピット (第25図)

調査区南端の東寄りに位置する。平面形は、円形である。規模は、径20cm、深さ20cmを測る。遺物は検出されなかった。



E-3 グリッドビット 4

- 1 黒褐色土 白色微粒子
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒子多
- 3 暗黄褐色土

E-3 グリッドビット 8

- 1 黒褐色土 黄褐色土若干 (柱痕)
- 2 暗褐色土 黄褐色土多
- 3 濃褐色土 黄褐色土僅か
- 4 黄褐色土
- 5 灰褐色土
- 6 灰褐色土 黄褐色土極多
- 7 暗黄褐色土

E-3 グリッドビット 14・ビット 15

- 1 暗褐色土 黄褐色土小ブロック多
- 2 暗褐色土 黄褐色土小ブロック若干
- 3 暗黄褐色土
- 4 黒褐色土



第25図 ピット (3)

VI その他の出土遺物

古墳跡や他の遺構を除き、調査区北西隅の風倒木痕1から円筒埴輪・形象埴輪が出土した。また、1号墳南側周溝覆土からは打製石斧が出土した。また、試掘トレンチから馬形埴輪の胸繫部分が出土した。

出土遺物

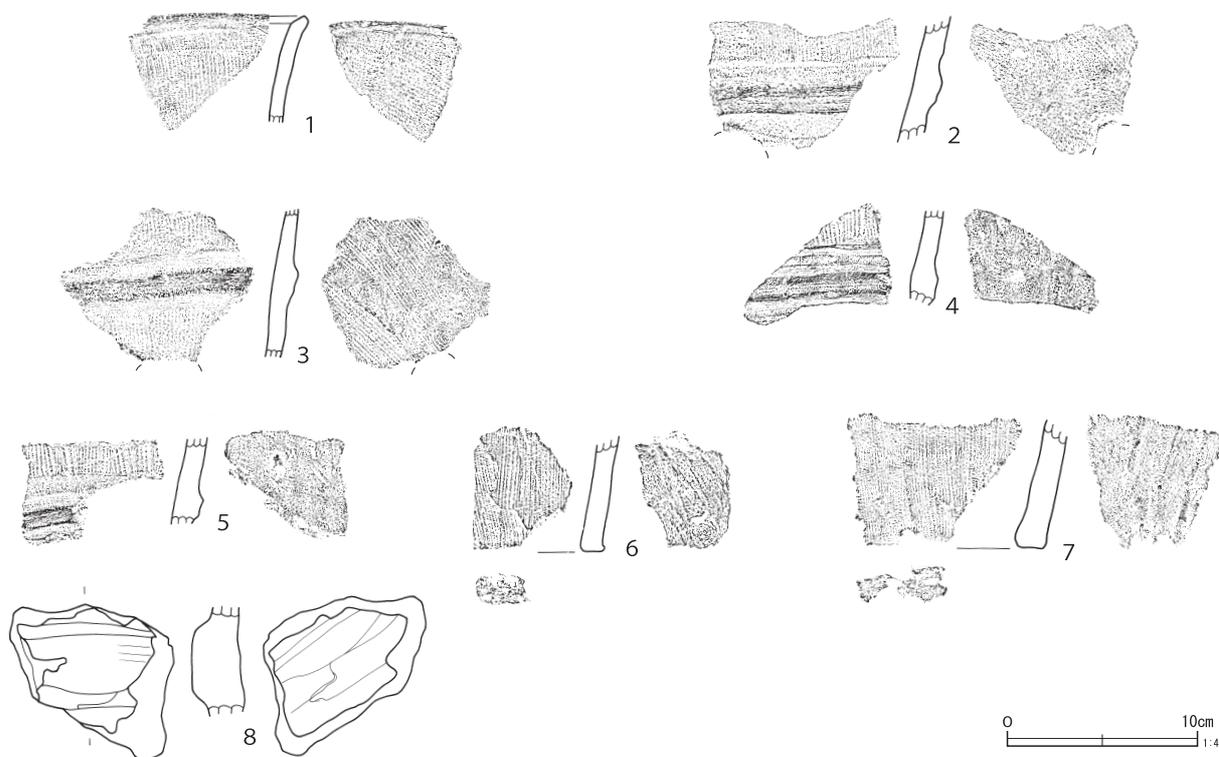
円筒埴輪 (第26図1～7)

いずれも外面は縦ハケで、内面は斜ハケと指ナデの2種がみられる。内面は1～3は斜ハケが施

され、4～7は指ナデがされている。1は口縁部の破片で口唇に屈曲がみられる。2・3は透孔がみられ、透孔は第2段にあることから、口縁部と第2段にかけての破片である。2は還元状態で須恵質である。4・5は突帯があるが第何段かは不明である。6・7は基底部で内面は指ナデされている。接合方向は不明である。

形象埴輪 (第26図8)

馬形埴輪の胸繫の一部が出土した。胎土は白色



第26図 グリッド出土・表採遺物

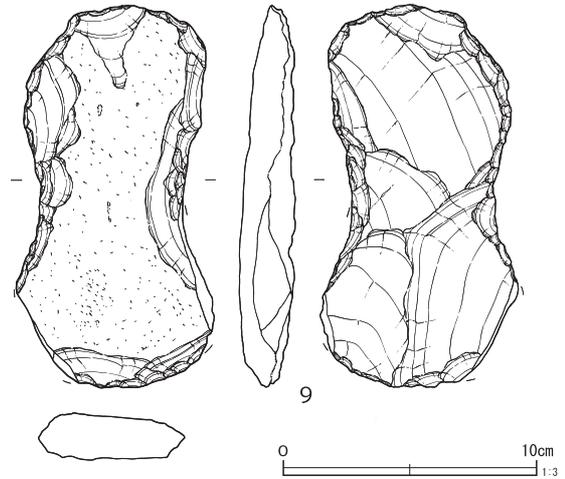
第5表 グリッド出土・表採円筒埴輪観察表 (第26図)

番号	器種	胎土	焼成	色調	残存	外面調整	本/2cm	内面調整	本/2cm	備考	図版
1	円筒	AIK	普通	明赤褐	破片	縦ハケ	10	斜ハケ	9	指ナデ E-3G 内面にぶい褐	26-2
2	円筒	BIK	良好	褐灰	破片	縦ハケ	12	斜ハケ	11	C-4G 透孔あり 須恵質	26-2
3	円筒	ABIK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	斜ハケ	11	B-2G 透孔あり	26-2
4	円筒	BI	良好	赤褐	破片	縦ハケ	10	指ナデ		表採	26-2
5	円筒	BFK	普通	赤褐	破片	縦ハケ	10	斜ハケ	ナデ	E-3G	26-2
6	円筒	E	良好	にぶい黄橙	破片	縦ハケ	13	指ナデ		C-4G カクラン	26-2
7	円筒	BI	良好	明赤褐	破片	縦ハケ	12	指ナデ		表採	26-2

粒子を含むが、砂粒子・小礫は含まない。皮帯部分は粘土紐を張り付けて表している。一部にハケ目が残るがほぼナデ消されている。内面は斜め方向に指ナデがされている。

石器 (第27図)

打製石斧である。側縁部と刃部の一部を欠損するもので、両側縁の中央部には浅く袢りが入る。長さ15.3cm、幅7.8cm、厚さ2.2cm、重さ295.5gで、石材はホルンフェルスである。



第27図 出土石器

風倒木痕 (第4図)

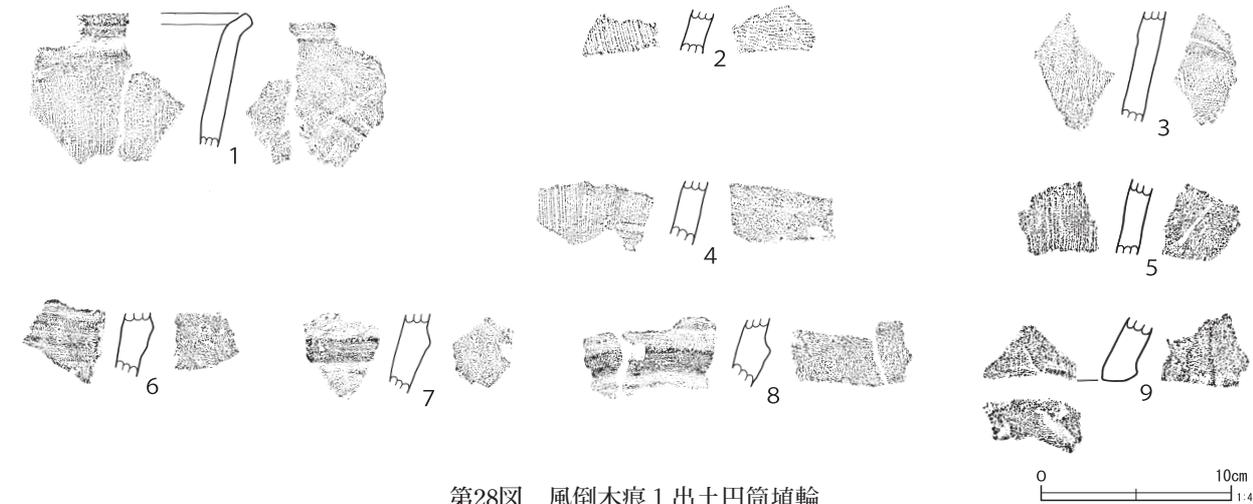
1は調査区北西隅のA-2グリッドに位置し、埴輪片が混入していた。

2は調査区南の中央付近、D・E-2・3グリッドに位置し、第5号土壌・ピットに掘り込まれている。

デである。1は口縁部で屈曲がみられるが口唇は外側に突出している。2～8は胴部の破片で、7・8は突帯部である。9は基底部分で底部には棒状圧痕がみられる。

風倒木痕1 出土円筒埴輪 (第28図)

いずれも外面は縦ハケ、内面は斜ハケ及び指ナ



第28図 風倒木痕1 出土円筒埴輪

第6表 風倒木痕跡出土円筒埴輪観察表 (第28図)

番号	器種	胎土	焼成	色調	残存	外面調整	本/2cm	内面調整	本/2cm	備考	図版
1	円筒	IK	普通	明赤褐	破片	縦ハケ	12	斜ハケ?		No.11	27-2
2	円筒	BI	普通	明赤褐	破片	縦ハケ	13	斜ハケ	12		27-2
3	円筒	I	普通	橙	破片	縦ハケ	12	斜ハケ	13		27-2
4	円筒	BIK	良好	明赤褐	破片	縦ハケ	15	ナデ			27-2
5	円筒	AI	普通	橙	破片	縦ハケ	12	斜ハケ?			27-2
6	円筒	IK	普通	橙	破片	縦ハケ?		ナデ			27-2
7	円筒	BI	普通	橙	破片	?		斜ハケ?			27-2
8	円筒	BIK	普通	橙	破片	?		ナデ			27-2
9	円筒	ABI	普通	橙	破片	縦ハケ	17	指ナデ		底部に棒状圧痕	27-2

Ⅶ 立会調査の遺構と遺物

生涯学習文化財課が行った立会調査は、平成22年10月から平成23年1月にかけて7回の立会調査が行われた。いずれもトレンチ調査で全容は把握できないが、そのうちの5回の調査で、縄文時代の住居跡1軒と古墳跡とみられる7基の遺構・遺物を検出した。

①地点（第30図）

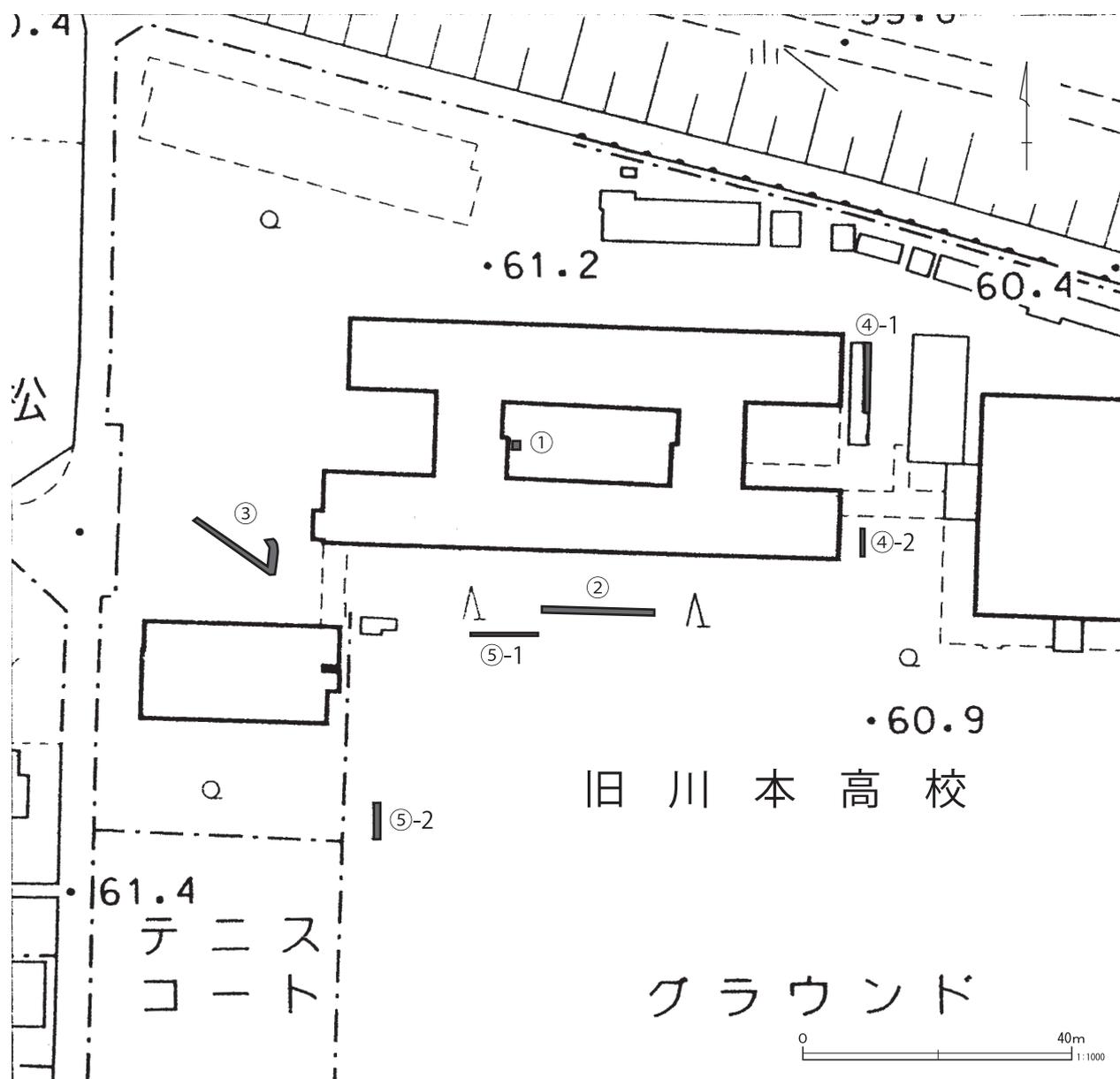
校舎の中庭部分で、古墳跡の周溝の一部が検出

された。調査範囲ほとんどが攪乱を受け全容は不明で、周溝の一部立ち上がりが確認できたのみである。周溝から円筒埴輪と形象埴輪が2か所で出土した。

出土遺物

円筒埴輪（第31図）

1・2は円筒埴輪で、外面は縦ハケ、内面は斜ハケで、内外面ともにハケ目は非常に粗い。



第29図 立会調査実施箇所位置図

形象埴輪 (第31図)

3・4は鞍形埴輪の鱗部分で、沈潜により模様が施されている。5は板状のものに突起が2か所あり、裏面に剥離痕がある。6は突起が1か所みられる。

②地点 (第32図)

校舎の南側に設置されている防球ネット部分の調査で、古墳跡の一部が検出された。調査範囲は多くが攪乱を受けていた。礫が確認できたが、石室の床面下部もしくは石室裏込めではなく、砂礫層が上がってきているものである。

出土遺物は、古墳時代の土器片が出土しているが小片で図示できない。

③地点 (第33図)

校舎と校門の間で、古墳跡の一部が確認された。周溝の一部で、下層から形象埴輪が検出されている。

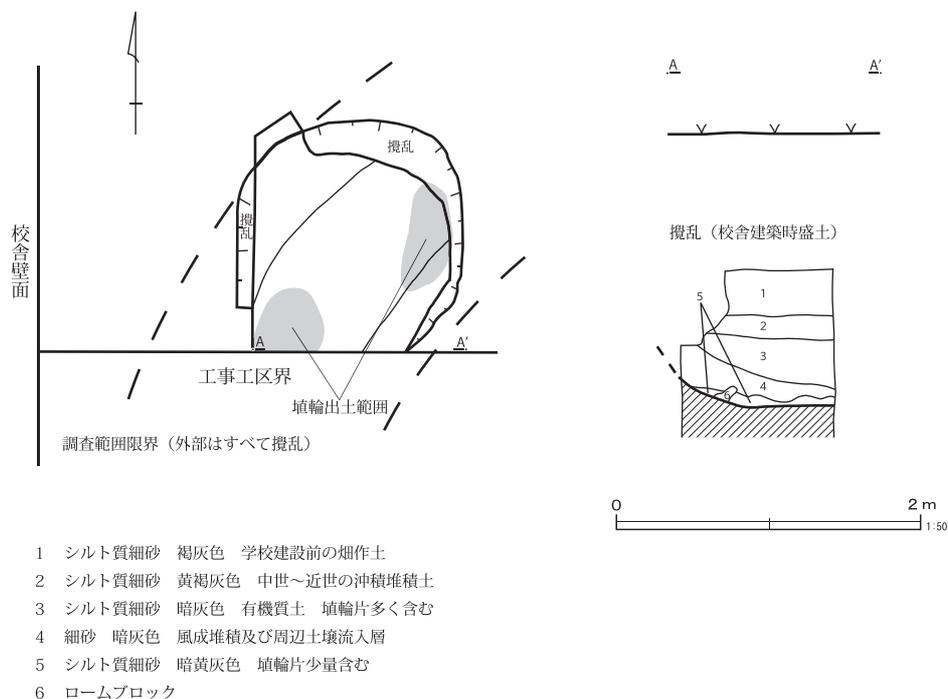
出土遺物

形象埴輪 (第31図)

7は家形埴輪の軒先で、屋根部分にハケ目が施されている。8は人物埴輪の肩部分、9・10は不明である。

④地点 (第36図)

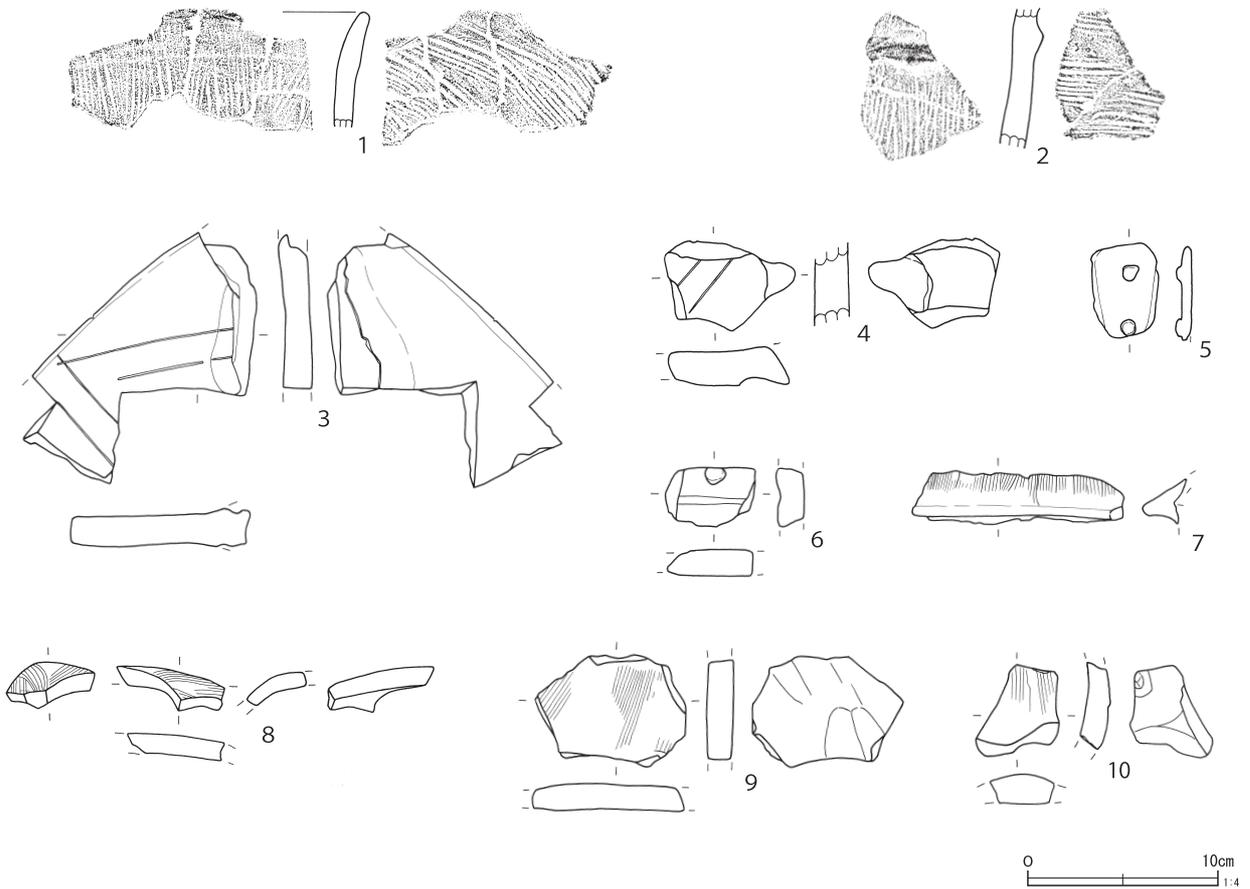
校舎東側の污水管設置部分の調査で、北側で縄文時代後期の住居跡と古墳時代の古墳跡、南側で古墳時代の古墳跡が検出された。



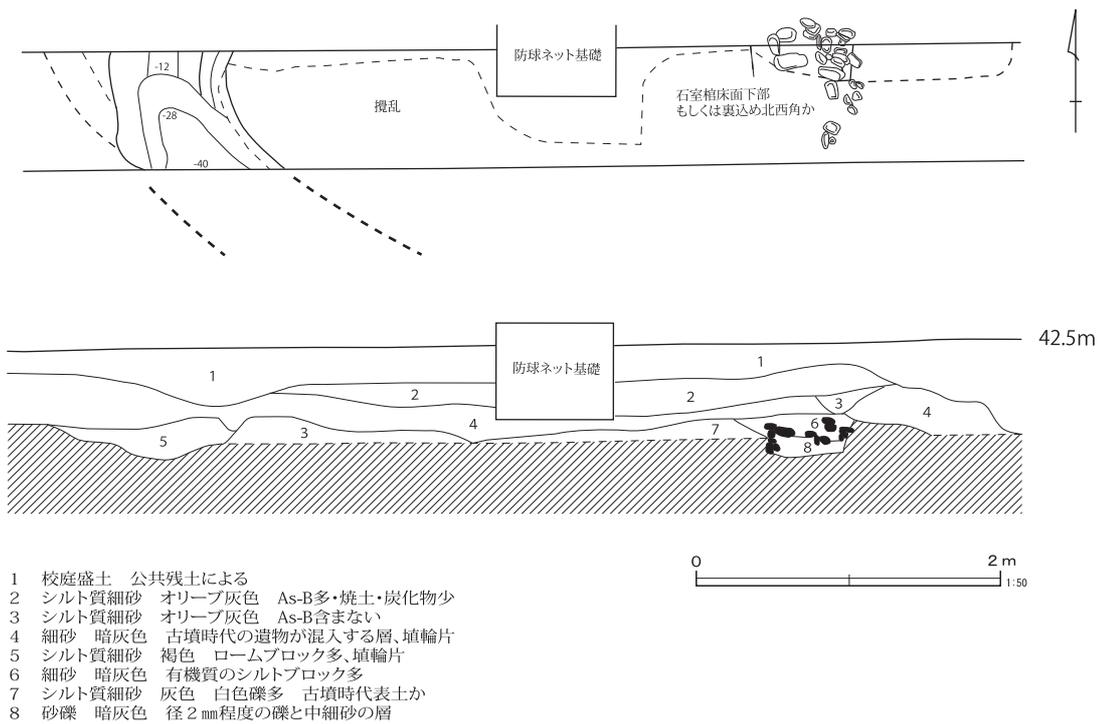
第30図 ①地点

第7表 立合調査①地点出土円筒埴輪観察表 (第31図)

番号	器種	胎土	焼成	色調	残存	外面調整	本/2cm	内面調整	本/2cm	備考	図版
1	円筒	BI	良好	明赤褐	破片	縦ハケ	6	斜ハケ	7		28-1
2	円筒	BI	良好	明赤褐	破片	縦ハケ	6	斜ハケ	7		28-1



第31図 立会調査出土遺物 (1)

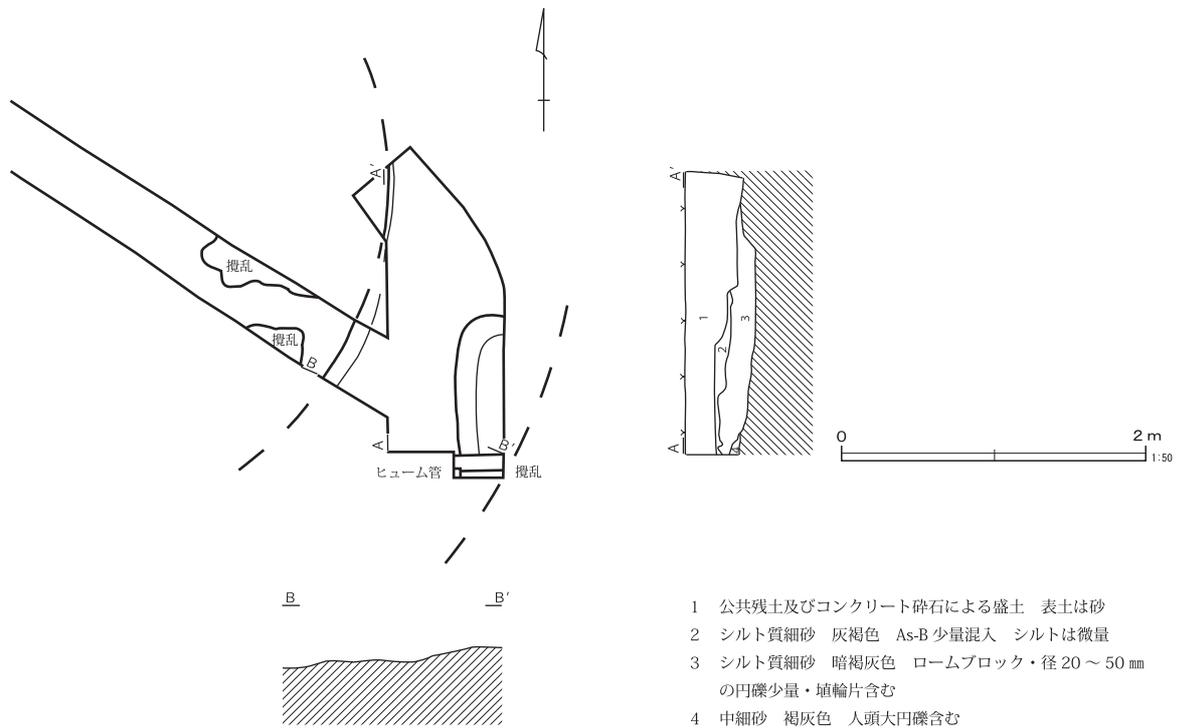


- 1 校庭盛土 公共残土による
- 2 シルト質細砂 オリーブ灰色 As-B多・焼土・炭化物少
- 3 シルト質細砂 オリーブ灰色 As-B含まない
- 4 細砂 暗灰色 古墳時代の遺物が混入する層、埴輪片
- 5 シルト質細砂 褐色 ロームブロック多、埴輪片
- 6 細砂 暗灰色 有機質のシルトブロック多
- 7 シルト質細砂 灰色 白色礫多 古墳時代表土か
- 8 砂礫 暗灰色 径2mm程度の礫と中細砂の層

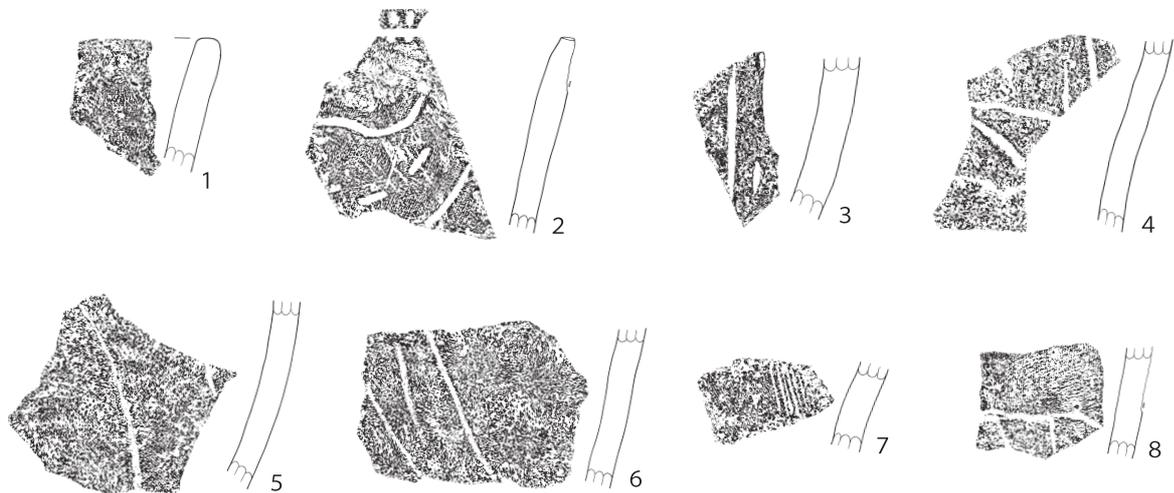
第32図 ②地点

第8表 立会調査出土形象埴輪観察表 (第31図)

番号	器種	胎土	焼成	色調	外面調整	本/2cm	内面調整	本/2cm	備考	図版
3	靱 鱗部	AFIKL	普通	にぶい橙					沈潜2条鋸歯文 ①地点	28-1
4	靱 鱗部	AIL	普通	橙					沈潜2条鋸歯文 ①地点	28-1
5	飾り	BFI	普通	橙					板状に2か所の突起 裏面剥離痕 ①地点	28-1
6	不明	AFIK	普通	橙					凹線と突起1か所 ①地点	28-1
7	家形 屋根	ABD	普通	橙	縦ハケ	12			軒先部 ③地点	28-1
8	人物 肩	FIK	良好	橙	ハケ	12			③地点	28-1
9	不明	ABD	普通	橙	ハケ	11	指ナデ		③地点	28-1
10	不明	ABD	普通	橙	ハケ	12	ナデ		③地点	28-1



第33図 ③地点



第34図 立会調査出土遺物 (2)



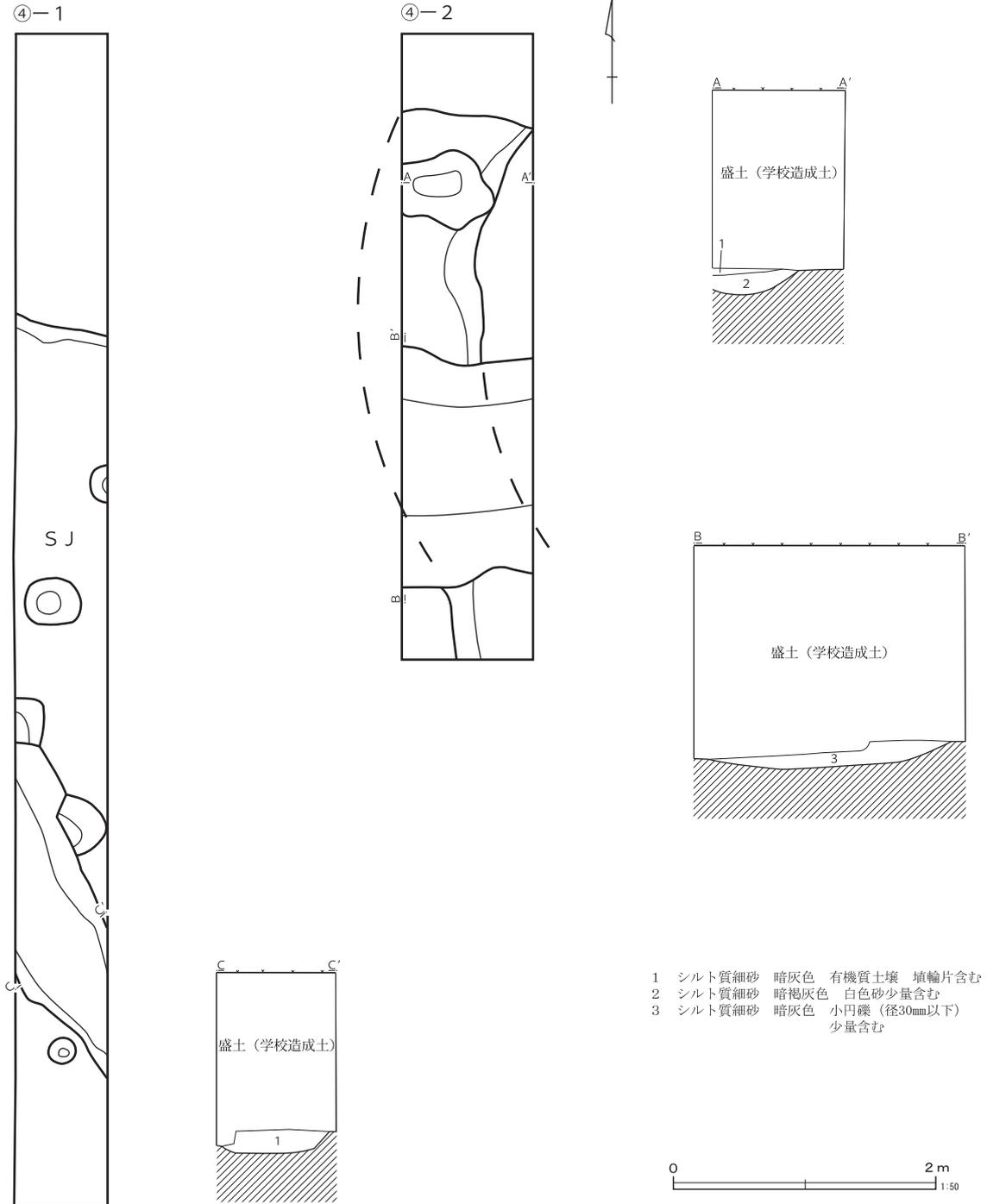
出土遺物

土器 (第34図)

第34図1～8は、④-1地点の中央部から出土した縄文土器で、いずれも後期初頭の称名寺式終

末の土器である。

1は、口縁部で無文部分となっている。2～8は胴部の破片である。2～6は、沈線によって文様を施文するもので、文様内に列点を充填してい



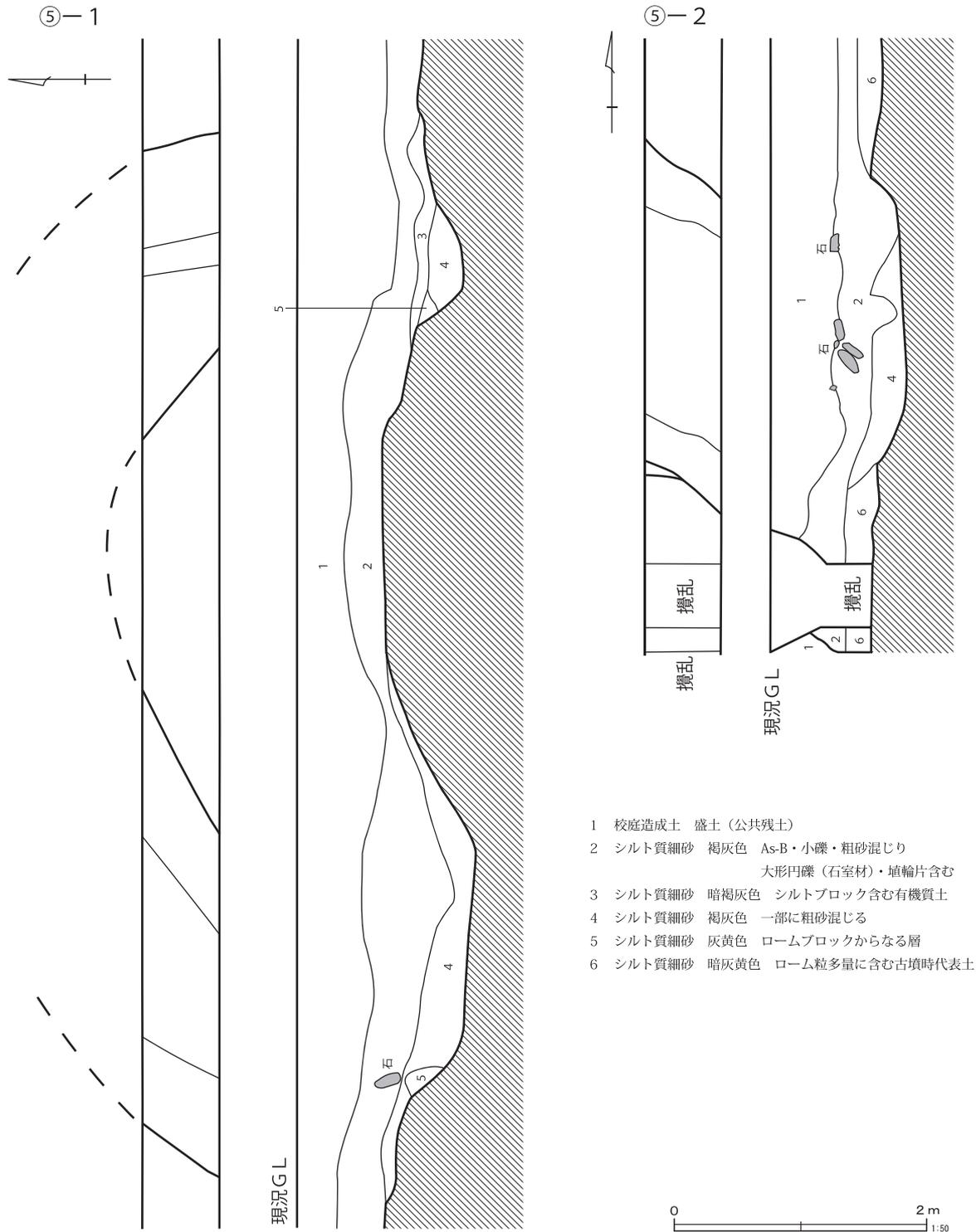
第35図 ④地点

る。列点はいずれも押し引き状に施文されている。また、2の割れ口には、土器製作時に施された粘土接合面の刻み目が認められる。7は条線が施文されている。8は器面が摩耗しており、沈線文の

一部が確認できるが他の文様は不明である。

⑤地点 (第35図)

校庭の校舎側と西側の調査で2か所の古墳跡を検出した。



第36図 ⑤地点

VIII 調査のまとめ

1. 調査の成果

今回の調査で、古墳時代後期の古墳跡2基、土壙墓1基と中世の竪穴状遺構1基、中・近世の土壙5基、ピット113基が確認された。また、立会調査で縄文時代後期の住居跡1軒、古墳時代後期の古墳跡と想定される遺構が7基検出された。

調査された2基の古墳の墳丘部は削平されて埋葬施設は検出されず、周溝が確認されたのみであった。第1号墳は墳丘径14.4m、周溝径17.0mの円墳で、南東側に周溝が途切れたブリッジがあり、周溝から円筒埴輪が出土した。

昭和43年の発掘調査では、2号墳・3号墳から円筒埴輪だけではなく形象埴輪も出土したと報告されているが、本調査の第1号墳から形象埴輪は検出されなかった。周溝の埴輪出土状況から、等間隔で埴輪が立てられていたのではなく、2個体ないし3個体の円筒埴輪を一つのまとまりとして立てていたものと考えられる。

また、埴輪とともに周溝から川原石が出土している。出土レベルは埴輪と同じで、埴輪とほぼ同時期に周溝内に落下したと考えられることから、石室や裏込め石の崩壊であることは考えられない。近隣の類例として荒川右岸の南西方に位置する箱崎古墳群の3号墳の墳丘際に列石が認められ、川原石が周溝内に散乱していた。このことから第1号墳では簡単な葺き石状の施設があり、周溝内に落下したのと考えられる。

第2号墳は、墳丘径15.8m、周溝径18.3mの円墳で、ブリッジは確認されなかった。検出された周溝は非常に浅く、周溝底の深度の上下によって周溝が途切れているが、ブリッジはなかったと考えられる。出土遺物は、削平したトレンチと周溝の交差部から円筒埴輪の破片が出土した。周溝底近くまで削平されたため第1号墳のように埴輪が

残存しなかったと考えられる。

第1号土壙墓は、第1号墳の北4mの位置にあり、長さ3.08m、幅1.50m、深さ0.44mを測り、長軸方向はほぼ東西方向である。覆土は南壁側下層で炭化物粒子や焼土粒子が含まれており、上層は第1号墳の周溝と同じ黒色土である。出土遺物はないが、古墳と同じ覆土であることなどからも、古墳と同時期の土壙墓として捉えられる。

調査区南側に中世の竪穴状遺構、中・近世の土壙と多数のピットがある。遺物が出土したのは6基のピットだけで、量も少なく明確な時期が捉えられない。また、ピット群は掘立柱建物を構成すると思われるが配列を捉えることはできなかった。E-3グリッド第5号ピットから出土した陶器は、外面に褐色の鉄釉が施されているが、近世とみられる。中・近世の土壙・ピットは古墳跡以南に密集しているにもかかわらず古墳跡墳丘中には疎らに数基が確認できるだけである。中世のいつの時代までか古墳が意識されており、集落がつくられなかったと考えられる。

立会調査で7基の古墳跡の周溝と推定される遺構を検出し、2基からは円筒埴輪だけでなく形象埴輪の鞍形埴輪の鱗部分、家形埴輪の軒先部分、人物埴輪の肩部などが出土している。第1号墳のように円筒埴輪だけの古墳と昭和43年調査や立会調査で確認された古墳のように円筒埴輪と形象埴輪を有する古墳が近接して古墳群を形成していたと考えられる。

今回調査された2基の円墳跡と立会調査で新たに発見された7基の円墳跡、昭和43年調査で検出された3基の円墳によって、本来の古墳群の東側の分布状況が明らかになった。また、東側の古墳群と分布調査で確認された西側の古墳群との間の



第37図 塚原古墳群分布図

空白部分にも古墳跡が存在する可能性がある。また、古墳跡が確認されていない古墳群西側の空白部分にも古墳跡が存在する可能性があり、20基を

2. 埴輪について

今回、第1号墳より出土した埴輪は円筒埴輪のみであるが、立会調査で確認された7基の古墳跡と想定されるうち2基の古墳跡の周溝からは、円筒埴輪と形象埴輪が出土している。

立会調査①地点で出土した円筒埴輪はハケ目が非常に粗く、第1号墳出土のものとは胎土・ハケ目工具などが異なり、また形象埴輪の鞍形埴輪や人物埴輪の一部が出土するなど円筒埴輪と形象埴輪の樹立が想定されることは、昭和43年調査の古墳に類似している。形象埴輪は、色調は円筒埴輪が赤及び赤褐色であるのに対し橙色と異なっており、また、胎土には小礫などは含まない。

第10図～12図1～12に図示した第1号墳出土の円筒埴輪はいずれも2条突帯3段構成である。全体の形態としては、底部から口縁部への立ち上がりは僅かに外へ膨らんで丸みを帯びながら立ち上がり、口縁部の先端は外側へ屈曲する。

外面調整は一次縦ハケのみで、内面調整は口縁部に横ないし斜ハケを施し、第2段までハケが及び以下は縦位の指ナデのもの、第10図～12図の1・4～8のようにハケ目が僅かに残るが口縁部からナデ消されているものがある。突帯は低いM字形、透孔は円孔で第2段に二孔が対になる。口縁部内面に「X」のヘラ描きが見られるものが2～6・9・11・12と8点が出土している。口縁部先端は屈曲をもち外反するものが多いが、3のようにそのまま立ち上がるもの、6のように口唇部が横へ突出し上面が平らになるものがある。端部は角状が多い。基部の接合方向が解るものは少なく、11・91が右回りに粘土板を接合し、底部には棒状圧痕が見られる。胎土には、砂粒子・小礫を含む。

超える古墳群であった可能性も考えられる。さらに、縄文時代後期の住居跡と想定される遺構が確認できたことは新たな発見である。

第10図～12図の2・5・10は各段がほぼ等間隔に区分されている。3は第1段が伸長化しており、他のものは概ね第2段が第1段・口縁部より短くなっている。

円筒埴輪の編年（山崎2000）では2条突帯円筒埴輪は第1段の伸長化の比率（第1段長／器高）はⅠ期後半に比率がやや増加する傾向で、やや伸長化の新しい様相が窺えるようになる。Ⅱ期になると第1段の比が41%前後とすでに伸長化がみられ、Ⅲ期には45%前後、Ⅳ期には50%を超えるようになる。

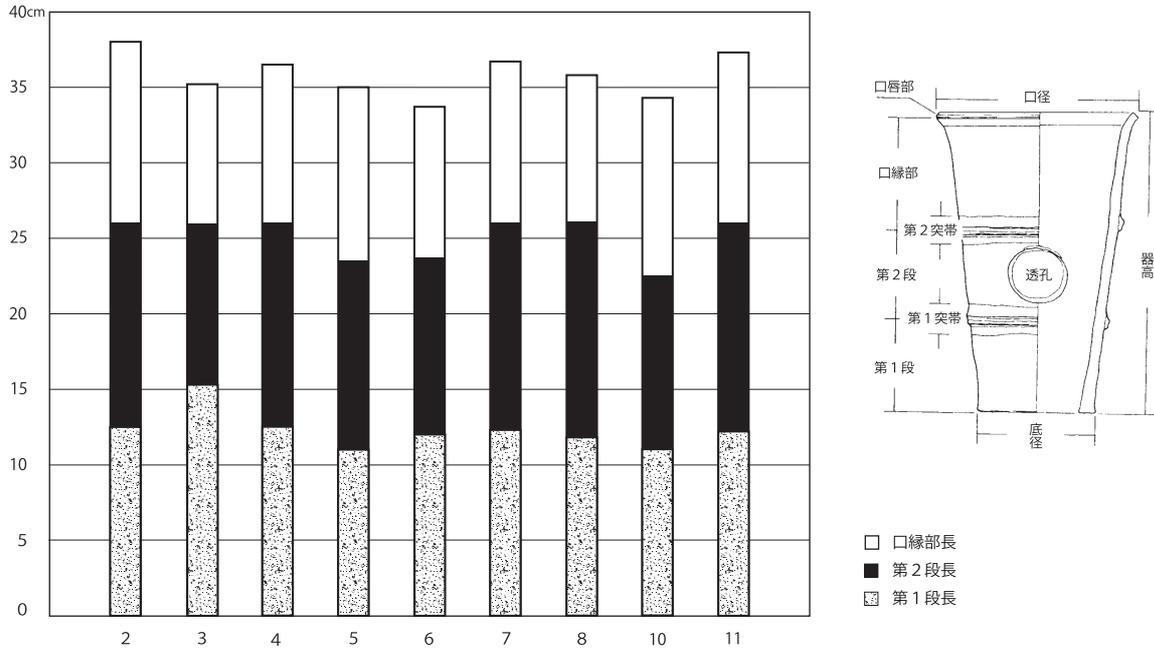
口縁長の比率（（口縁長／器高）はⅠ期では30%前半の比率で、Ⅱ期になると30%台を下回り、Ⅲ期・Ⅳ期と減少傾向にある。

胴径の比率は（（口径＋底径）÷2÷器高）で示し、細身化を検証している。Ⅰ期・Ⅱ期は50%前後、Ⅲ期になると45%前後、Ⅳ期になると30～40%となり細身化していくことが窺える。

塚原古墳群の円筒埴輪の各段の構成比は前述のように第10図～12図の2・5・10の各段がほぼ均等配分に近いⅠ群、3の第1段が伸長化し、第2段長が26.4%と短いⅡ群、最上段の口縁部がやや長く、第2段が狭くなる4・6・7・8・11のⅢ群に大きく三分される。胴径比は、3群ともほぼ同じ50%～60%前後の比率で細身化はみられない。

Ⅰ群は生出塚円筒埴輪編年のⅠ期の後半、Ⅱ群は伸長化からすればⅡ期、Ⅲ群もⅠ・Ⅱ期に併行する。

塚原古墳群の円筒埴輪は、東方約4kmの江南台地に存在する姥ヶ沢埴輪窯跡・権現坂埴輪窯跡で生産されたものではないかと考えられる。姥ヶ沢埴輪窯跡遺跡では8基の窯跡が調査され、立地か



第38図 円筒埴輪計測図

第9表 埴輪計測値表 (第10~12図)

(単位: cm)

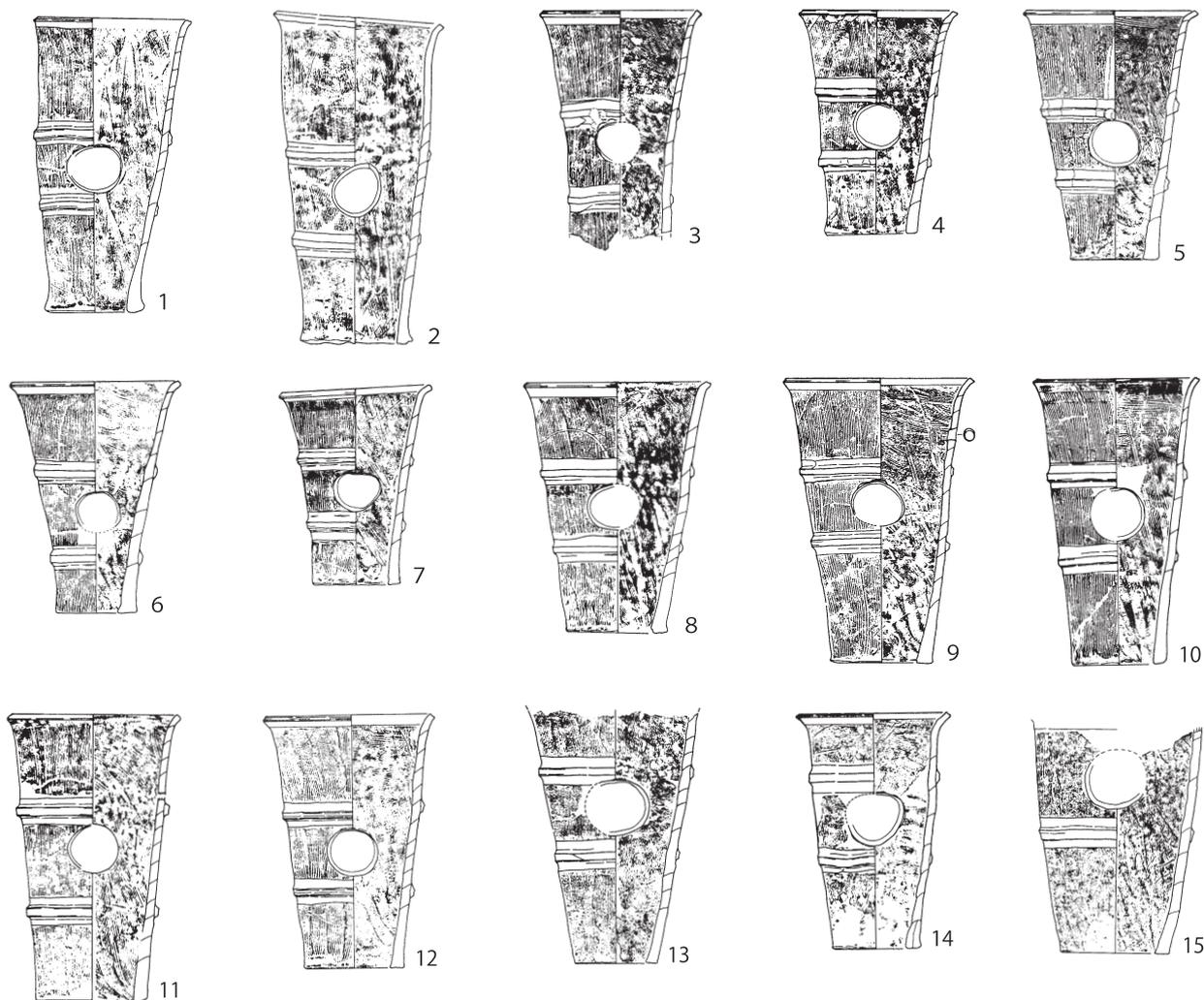
番号	器高	1段長	口縁長	口径	底径	2段長	1段長/器高	口縁長/器高	胴径/器高
2	38.0	12.5	13.5	(28.0)	13.3	12.0	32.9%	35.5%	54.3%
3	35.2	15.3	10.6	25	12.5	9.3	43.5%	30.1%	53.3%
4	36.5	12.5	13.5	24.5	12.0	10.5	34.2%	37.0%	50.0%
5	35.0	11.0	12.5	24.7	(13.0)	11.5	31.4%	35.7%	53.9%
6	33.7	12.0	11.7	28.3	(12.7)	10.0	35.6%	34.7%	60.8%
7	36.7	12.3	13.7	(28.5)	(11.8)	10.7	33.5%	37.3%	54.9%
8	35.8	11.8	14.3	24.6	12.5	9.7	33.0%	39.9%	51.8%
10	34.3	11.0	11.5	25.8	13.5	11.8	32.1%	33.5%	57.3%
11	37.3	12.2	13.8	25.5	13.0	11.3	32.7%	37.0%	51.6%

ら第1号から3号の上位群と第5号から第8号の下位群と単独の4号の3群に分かれている。斜面下の窯跡から斜面上の窯跡へと推移し、第7号窯跡→第6・8号窯跡→第4・5号窯跡→第2・3号窯跡→第1号窯跡と変遷する。

第7号窯跡の埴輪は器高が40~45cmで、第8号窯跡の埴輪とともに、細身のタイプである。第5号窯跡・第4号窯跡の埴輪になると器高は塚原古墳群のものより低くなり、まだ細身のタイプが残る。第4号窯跡の埴輪は器高27~34cmと器高にばらつきがみられる。この段階まで細身タイプが残

る。第2号窯跡出土の埴輪は塚原古墳群出土の埴輪とタイプの近い。第1号窯跡は器高が34~39cmで細身タイプになる。姥ヶ沢埴輪窯出土の円筒埴輪を実見したところ、塚原古墳群の外面の縦ハケより粗く、タイプのにも底部から口縁部への立ち上がりが直線的である。以上のことなどから塚原古墳群の埴輪は姥ヶ沢埴輪窯跡産ではないと考える。

権現坂埴輪窯跡群の埴輪は確認調査の資料のみであるが、円筒埴輪は、底部から口縁部の立ち上がりが、直線的なものに僅かに膨らみながら立ち



1・2 姥ヶ沢第7号窯跡 3 姥ヶ沢第8号窯跡 4 姥ヶ沢第5号窯跡 5～7 姥ヶ沢第4号窯跡
 8 姥ヶ沢第2号窯跡 9～12 姥ヶ沢第1号窯跡 13～15 権現坂第4号窯跡

第39図 埴輪窯跡出土埴輪 (S: 1/10)

上がるものがある。また、ヘラ描きを有する埴輪が全体の25%を占め、ヘラ描きの「×」が口縁部内面に施されている。塚原古墳群の埴輪との類似点はあるが、実見したところでは、細身であるこ

と、外面のハケ目が姥ヶ沢埴輪窯出土のものより粗いもの、非常に細かいものがあり、塚原古墳群出土のものとはやや異なるようである。

引用・参考文献

- 新井 端ほか 1998『千代遺跡群』—弥生・古墳時代編— 埼玉県江南町千代遺跡群発掘調査報告書2
- 大谷 徹 1998『新屋敷遺跡D区』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第194集
- 川本町 1989『川本町史』通史編
- 江南町 1995『江南町史』資料編1 考古
- 塩野 博 2004『埼玉の古墳〔大里〕』
- 城倉正祥 2010「生出塚産円筒埴輪の編年と生産の諸段階」『考古学雑誌』94-1
2010 a 「生産地分析からみた北武蔵の埴輪生産」『考古学研究』57-2
- 山崎 武 2000「埼玉県の円筒埴輪の編年について」『埴輪研究会誌』第4号